



2019

EF EPI

EF EPI 英語能力指数

世界100か国・地域の英語力ランキング

EF SET

EF英語標準テスト
www.efset.org

www.ef.com/epi

本年度の注目点

1. 昨年に比べ77%増加の230万人
2. 8か国が新たに参加: バーレーン、コートジボワール、ケニヤ、キルギスタン、モルディブ、ネパール、パラグアイ、スーダン
3. 男性の英語スキルが女性に追い付きつつある
4. 英語能力と国際的な関与や世界との繋がり関係性を詳しく検証
5. 学生の英語能力の分析は学校向けEF EPI英語能力指数レポートとして公表(関連レポートEF EPI-sはwww.ef.com/epiよりダウンロード可能)

目次

- 04 エクゼクティブ・サマリー
- 06 EF EPI 2019 ランキング
- 08 EF EPI 2019 都市別スコア
- 10 EF EPI詳細データ
- 12 英語とイノベーション
- 14 職場における英語
- 16 英語と経済
- 18 英語と社会
- 20 ヨーロッパ
- 24 アジア
- 28 中南米
- 32 アフリカ
- 36 中東
- 40 結論
- 42 提言
- 44 付録A: この指数について
- 46 付録B: EF EPI 能力レベル
- 47 付録C: CEFR レベルとCan-Do自己評価
- 48 付録D: EF EPI 各国・地域スコア
- 50 付録E: 参考資料

エクゼクティブ・サマリー

現代社会では、英語を話せることで得られるネットワーク外部性は絶大です。英語を使う人の増加に伴い、英語の有用性はさらに高まります。

10億人以上の人々が第1言語または第2言語として、さらに何億人もの人々が第3言語、第4言語として英語を話しています。早いスピードで変化するビジネスにおいて、またこれから社会に出る若者や科学者、研究者、さらには海外旅行者にとって、英語能力は自身の視野を広げ、様々な困難を軽減し、よりスムーズな情報交換を可能にします。英語を学ぶことで得られるインセンティブは今までにないほど大きくなっています。

それでもなお、英語能力に対する需要に供給がまったく追いついていません。第一次産業改革後に構築された教育制度が、第四次産業改革以降求められている需要に適應できていません。初期段階に重きを置いた学習文化では成人が新しい技能を身に付ける機会がほとんどありません。一方で、ギグエコノミーの台頭とともに、人々は新たな雇用への素早い転換が求められています。

英語能力は競争力を高める強みと捉えられがちですが、レポートでは、英語を話すことで得られる繋がりも同様に重要であることが示されています。このような繋がりによって、より良い仕事を見つけたり、起業しやすくなるのは勿論のこと、この繋がり自体に価値があります。英語を話すということは、好奇心を持って様々な接点を持ち、国境を越えて責任を共有する価値観をもたらし、グローバル市民として連携することにつながります。

本レポートは世界のどの地域で英語能力がどのように伸びているか調査することを目的としています。EF EPI英語能力指数第9版の作成にあたっては、2018年に弊社の英語テストを受験した230万人の結果を分析しています。

注目すべき分析結果は次の通りです：

英語能力は継続的に向上

世界平均、また加重平均で見た場合の全体の英語能力は大きく変わりませんが、11か国ではスコアが大幅(2ポイント超)に向上し、一方で、大幅な下降が見られたのは4か国のみでした。非常に高い英語能力に位置付けられた国の数も過去最高となっています。

英語とイノベーションの密接な関係

英語は国際的な協業を図るための主要言語であり、前年度のレポートと同様、英語と研究開発への投資における様々な取り組みの間には相関性が見られました。この分析結果は、管理職員の出身国が多岐に渡る会社の方が、多様に劣る競合他社よりもイノベーションの分野でより多くの収益を上げているという研究結果とも一致します。英語を話す組織は、より多様な人材を集めることができ、世界中からアイデアを取り入れることができます。また、組織内で国際的な共同作業を行う機会も多くなります。

英語能力の高い国はより公平で解放的である

世界に開かれた社会であることと市民の社会的、政治的な平等性の間には、明確な関係性が見られます。閉鎖的な社会では内向的で、厳格な階級制度が構築されます。開放的な社会では国外へと目が向けられており、格差がより少なく公平です。社会全体の国際的な繋がりを築く媒介として、英語は公平性や海外との関与を示す指標の両方と相関性があります。

テクノロジーが英語を拡散する

テクノロジーが実現する遠隔教育によって、いずれ、すべての人がどこからでも安価に英語を学べるようになるでしょう。その可能性はまだ完全に実現されていませんが、人口当たりのセキュアサーバー数、ICT関連輸出、ブロードバンドサブスクリプション数などの情報通信技術の採用状況と英語能力の間には一貫した相関性があります。発達したICTにより英語メディアに直接アクセスできることで多くの人々がより素早く英語を学習できるようになります。

20代後半の英会話能力が最も高い

今回初めて26～30歳の年齢グループの英語スキルが最も高くなりました。この結果は世界中の大学における英語指導の広まりを反映しています。また、仕事上での英語の習得やある種の正式な訓練によって社会人のキャリアの早い段階で英語能力が構築されていることも示唆されています。本年度のレポートでは、21～25歳の年齢グループの英語能力が2番目に高くなっています。

管理職の英会話能力が最も高い

世界的に見て、管理職は経営陣や一般職員よりも英会話能力が高く、全体で3ポイントを超える差となりました。管理職は若手よりも頻繁に海外の同僚や顧客と交流する機会があり、英会話を実践する機会も多い傾向にあります。さらに、英語能力の重要性から、英語能力のある人材は管理職に昇進しやすいことが挙げられます。その一方、経営陣は年齢がより高くなり、その多くが英語の価値が今よりも低かった時代のビジネス環境で経験を積んできた人々です。勤続年数に関係なくすべての職位で英語能力を構築することで、企業が組織間で情報共有を迅速に行い、より多様性のある人材を獲得できるようになります。

競争が激しい業界ほど 英語が多用されている

本レポート調査対象となった業界のうち、教育および公的機関の2業種を除く全ての業界で、英語能力スコアの差が10ポイント以内に収まる結果となりました。一方で前の2業種は、国際競争が少ないことを反映して、他業界に比較した英語能力は著しく低い結果となりました。当然、公務員は自国民にサービスを提供することを最優先としていますが、外交官や教師、多言語社会に従事する公務員、また海外の事例から学び、世界経済の変化のスピードに適応したいと望むビジネスプロフェッショナルたちにとって、英語は必要不可欠なスキルといえるでしょう。

特定の職種に英会話能力の低い人材が集中職務間の英語能力の差は引き続き拡大しており、その差は歴然です。例えば、事務職に従事するグループを一つの国と想定しEPI指標によるランキングをまとめると100か国中94位という結果になります。もちろん、すべての職業で英語が必要なわけではありませんが、40～50年にわたって同じ職業・職務に従事することが難しくなっているなか、適応性の観点からも英語能力は非常に重要です。英会話能力のある人材とない人材の差、そして英語を必要とする職業と必要としない職業の間の差が広がることによって、企業の柔軟性、人材の流動性は硬化することになります。

男女間の差は縮まる傾向に

昨年度は、世界平均でも多くの国々でも、女性の英語レベルが男性を上回っていましたが、この差は大幅に縮まっています。アフリカ、アジア、ヨーロッパでは引き続き女性のスコアが男性のスコアを上回っていますが、その差は1ポイント未満です。中南米では今回初めて男性のスコアが女性のスコアを上回りましたが、その差は僅かです。一方、中東では男性が昨年は僅差で優勢でしたが、女性のスコアが男性のスコアに追い付き、もう少しで追い越しそうな勢いです。

ヨーロッパにおける英語スキルは両極化

EU諸国では英語能力が向上し、非常に高い英語能力レベルに属する国の数がこれまでで最も多くなりました。フランスのスコアは過去2年間続伸していますが、スペインとイタリアは他のEU諸国から依然として遅れています。ヨーロッパ域内は二極化しており、EU加盟国よりもEU周辺国における英語能力開発の遅れが目立っています。

アジア圏の英語能力は幅広いレベルに分散

アジアでは、調査対象国の半数以上が昨年よりもスコアを落とし、地域全体の英語能力は昨年よりも僅かに下降しました。アジア地域の地理的な広がり考えれば当然の結果ではありますが、昨年と同様に英語能力レベルの分布幅が最も大きくなっています。中国は過去10年間で確実な進歩を遂げ、今回初めて低い英語能力レベルから標準的な能力レベルへとレベルアップしました。

中南米は好転

18か国の調査対象国のうち12か国が対前年比で伸長しており、その多くが大きな伸びを記録しています。一方で、地域内で最も人口の多いメキシコとブラジルのスコアがわずかに下降したため、地域の加重平均値に変化はありませんでした。他の多くの中南米諸国では近年、教員養成に重点投資をしており、徐々にその成果が現れてきているといえるでしょう。

アフリカ地域は能力の高低差に隔たりが

過去数年と同様にアフリカの国々では高い能力を示した国はわずか、多くの国では低い能力レベルにとどまり、英語能力の高低差はかつてない広がりを見せています。とりわけ人口の多い南アフリカとエチオピアのスコアの下落と、新たに調査国に追加されたスーダン、およびカメルーンが非常に低い能力レベルに位置したことにより、地域全体の平均は大きく下降しました。

中東地域はさらなる遅れを

中東地域の英語能力は依然として世界でも最も低く、その差は歴然としています。地域平均は昨年のレポートよりもわずかに下落し、政府主導の英語能力向上の取り組みの成果はまだ見られませんが、変化に向けた準備は着々と進んでいるかもしれません。

EF EPI 2019 ランキング

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

非常に高い英語能力

01	オランダ	70.27
02	スウェーデン	68.74
03	ノルウェー	67.93
04	デンマーク	67.87
05	シンガポール	66.82
06	南アフリカ	65.38
07	フィンランド	65.34
08	オーストリア	64.11
09	ルクセンブルグ	64.03
10	ドイツ	63.77
11	ポーランド	63.76
12	ポルトガル	63.14
13	ベルギー	63.09
14	クロアチア	63.07

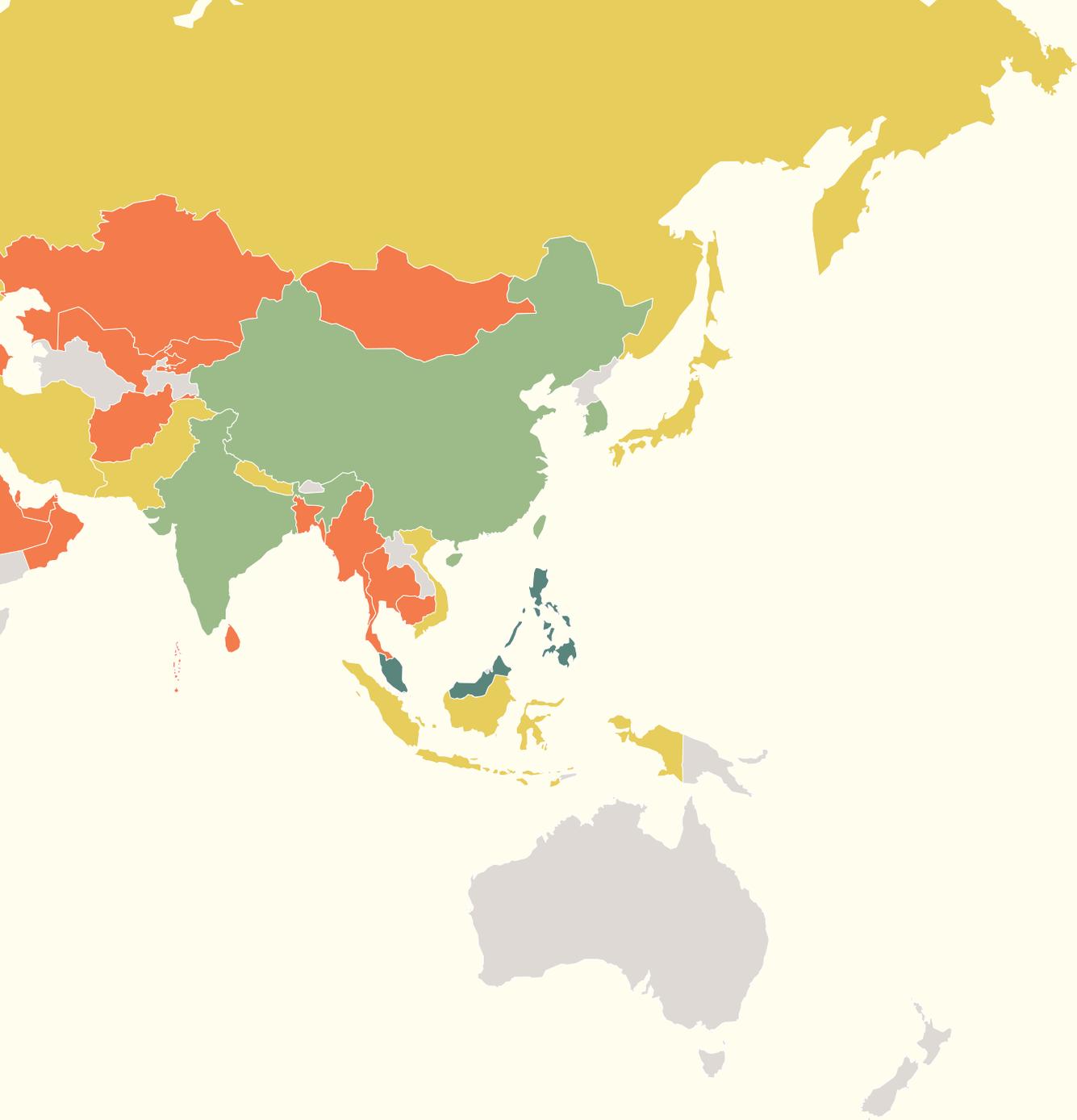
高い英語能力

15	ハンガリー	61.86
16	ルーマニア	61.36
17	セルビア	61.30
18	ケニア	60.51
19	スイス	60.23
20	フィリピン	60.14
21	リトアニア	60.11
22	ギリシャ	59.87
23	チェコ共和国	59.30
24	ブルガリア	58.97
25	スロバキア	58.82
26	マレーシア	58.55
27	アルゼンチン	58.38
28	エストニア	58.29
29	ナイジェリア	58.26

標準的な英語能力

30	コスタリカ	57.38
31	フランス	57.25
32	ラトビア	56.85
33	香港特別行政区	55.63
34	インド	55.49
35	スペイン	55.46
36	イタリア	55.31
37	韓国	55.04
38	台湾	54.18

39	ウルグアイ	54.08
40	中国	53.44
41	マカオ特別行政区	53.34
42	チリ	52.89
43	キューバ	52.70
44	ドミニカ共和国	52.58
45	パラグアイ	52.51
46	グアテマラ	52.50



低い英語能力

47	ベラルーシ	52.39
48	ロシア	52.14
49	ウクライナ	52.13
50	アルバニア	51.99
51	ポリビア	51.64
52	ベトナム	51.57
53	日本	51.51
54	パキスタン	51.41
55	パーレーン	50.92
56	ジョージア	50.62
57	ホンジュラス	50.53
58	ペルー	50.22

非常に低い英語能力

59	ブラジル	50.10
60	エルサルバドル	50.09
61	インドネシア	50.06
62	ニカラグア	49.89
63	エチオピア	49.64
64	パナマ	49.60
65	チュニジア	49.04
66	ネパール	49.00
67	メキシコ	48.99
68	コロンビア	48.75
69	イラン	48.69
70	アラブ首長国連邦	48.19
71	バングラデシュ	48.11
72	モルディブ	48.02
73	ベネズエラ	47.81
74	タイ	47.61
75	ヨルダン	47.21
76	モロッコ	47.19
77	エジプト	47.11
78	スリランカ	47.10
79	トルコ	46.81
80	カタール	46.79
81	エクアドル	46.57
82	シリア	46.36
83	カメルーン	46.28
84	クウェート	46.22
85	アゼルバイジャン	46.13
86	ミャンマー	46.00
87	スーダン	45.94
88	モンゴル	45.56
89	アフガニスタン	45.36
90	アルジェリア	45.28
91	アンゴラ	44.54
92	オマーン	44.39
93	カザフスタン	43.83
94	カンボジア	43.78
95	ウズベキスタン	43.18
96	コートジボワール	42.41
97	イラク	42.39
98	サウジアラビア	41.60
99	キルギス	41.51
100	リビア	40.87

EF EPI 2019 都市別スコア



能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

非常に高い英語能力

アムステルダム	71.35
ストックホルム	69.24
コペンハーゲン	68.52
ヘルシンキ	66.21
オスロ	65.89
ウィーン	65.63
ベルリン	65.51
ムンバイ	65.38
ハンブルク	64.72
ワルシャワ	64.68
リスボン	64.50
ブカレスト	64.45
ブダペスト	64.27
ザグレブ	64.14
ダバオ	63.85
マニラ	63.69
ポルト	63.65
ブリュッセル	63.56
クアラルンプール	63.42
ニューデリー	62.66

高い英語能力

ナイロビ	61.94
ブラチスラバ	61.88
ベオグラード	61.42
プラハ	61.29
ブエノスアイレス	60.87
パリ	60.28
サンノゼ	59.32
ソフィア	59.29
ハイデラバード	58.96
コルドバ	58.90
ラゴス	58.47
リヨン	58.22
バルセロナ	57.97

標準的な英語能力

マドリード	57.35
台北	57.33
ソウル	57.14
ミラノ	57.12
上海	56.64
ローマ	56.28
ハバナ	55.75
北京	55.68
モンテビデオ	55.59
サンクト・ペテルブルグ	54.94
メキシコシティ	54.80
サンティアゴ	54.79
モンテレイ	54.20
グアタハラ	53.93
モスクワ	53.86
ハノイ	53.68
ミンスク	53.58
グアテマラシティ	53.51
キエフ	53.51
ホーチミン	53.07
ドバイ	52.84
成都	52.69
ジャカルタ	52.58
東京	52.58
パナマ	52.54
ブラジリア	52.50



低い英語能力

広州	52.42
リオデジャネイロ	52.39
ティラーナ	52.32
深圳	52.32
バンドン	52.32
スラバヤ	52.31
サント・ドミンゴ	52.09
リマ	51.86
サンパウロ	51.44
メデジン	51.35
ティビリシ	51.24
テヘラン	51.23
キト	51.13
サン・サルバドル	51.01
バンコク	50.70
チュニス	50.60
カリ	50.53
マナグア	49.97
ボゴタ	49.80
カラカス	49.44
カイロ	49.27
アンカラ	49.15
カサブランカ	49.13
ダッカ	48.67
イスタンブール	48.65

非常に低い英語能力

ハルツーム	48.39
アルジェ	48.33
アンマン	48.32
ヤンゴン	47.49
ティファナ	47.31
ヌルスルタン	46.48
ドーハ	46.38
アルマトイ	45.41
バクー	45.40
バグダード	45.06
カブール	45.02
ダマスカス	45.02
ビシュケク	43.73
ジェッダ	42.95
リヤド	42.90
タシケント	42.52

400を超える地域と都市の英語能力スコア、および国別の性別、年齢、業種のデータは www.ef.com/epi からダウンロードできます。

EF EPI 詳細データ

受験者の内訳

2.3M

合計受験者数



59%

女性



90%

40歳未満



41%

男性

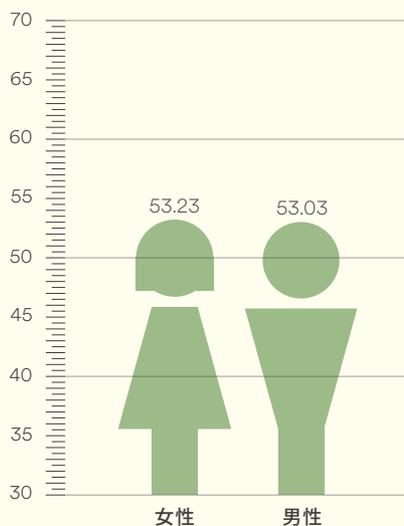
23 歳

年齢の中央値

性別および年齢が英語能力に及ぼす影響

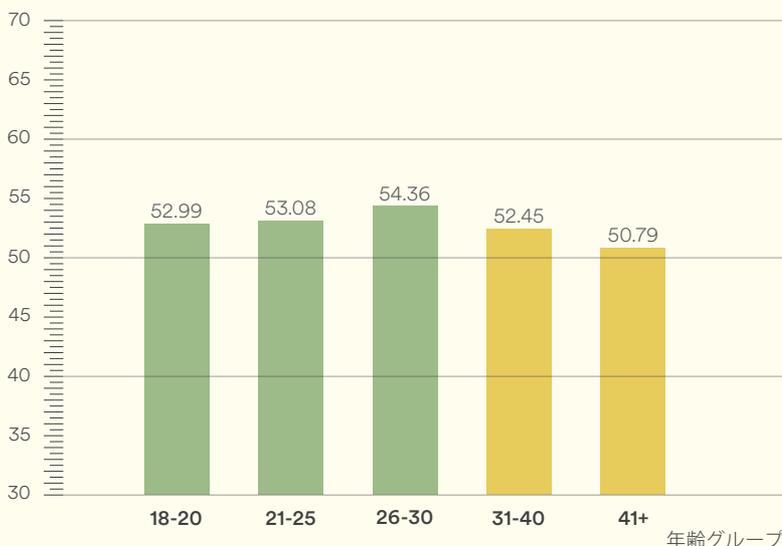
世界全体の男女差

EF EPI スコア



世界全体の世代間差

EF EPI スコア



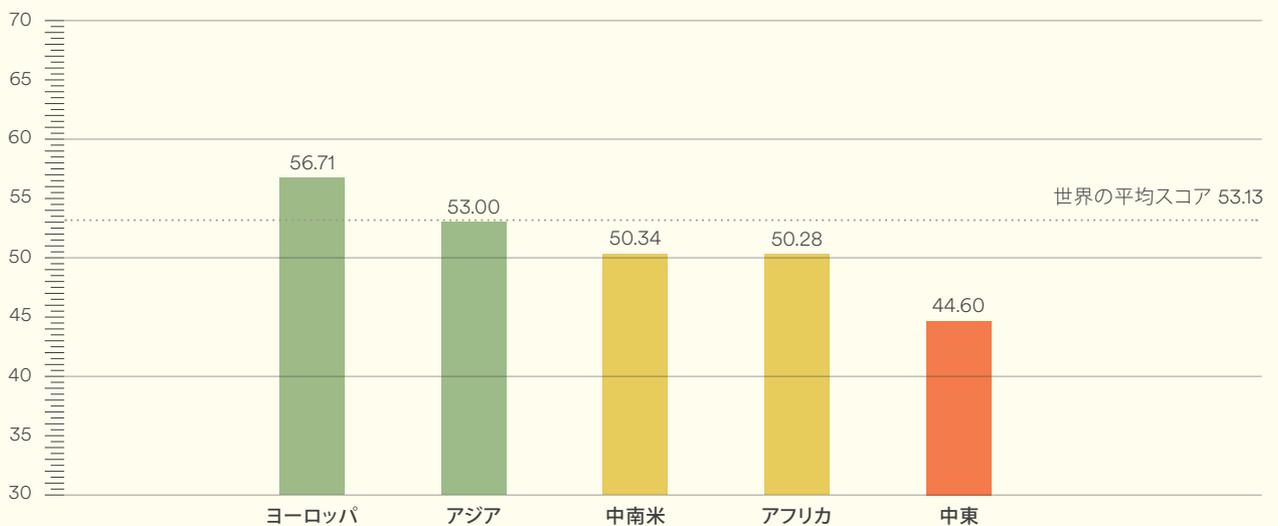
EF EPI 2019 地域別トレンド

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	中南米	中東
最高スコア	オランダ 70.27	シンガポール 66.82	南アフリカ 65.38	アルゼンチン 58.38	バーレーン 50.92
最低スコア	アゼルバイジャン 46.13	キルギス 41.51	リビア 40.87	エクアドル 46.57	サウジアラビア 41.60
最大上昇	ポルトガル +3.12	台湾 +2.30	カメルーン +3.83	ボリビア +2.77	イラク +1.57
最大降下	ルクセンブルグ -2.30	スリランカ -2.29	エジプト -1.65	ドミニカ共和国 -2.39	サウジアラビア -2.05

EF EPI 2019 地域別スコア

EF EPI 地域別平均

EF EPI スコア



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

英語とイノベーション

デジタルツールの躍進によって、21世紀は過去に類を見ないほど、国境を越えた情報、アイデアの交換が行われました。世界的な英語スキルの向上と、旅行費や通信費の下落により、この流れは一層加速することが予想されます。

今日、科学者やエンジニアは言語の壁を理由に、グローバルイノベーションを看過することはできませんし、新しいアイデアを必要としているのはなにも研究者だけではありません。あらゆる分野において、専門職に従事する人々は海外のベストプラクティスに通じていることが求められますし、一方で企業も英語能力文化の浸透により、数年前までリーチすることのできなかった人材や専門知識を獲得することが可能になります。

こうしたトレンドを裏付けるように、国や都市がどのように成長し、人材を引きつけ保持しているのかを測定した「人材競争力に関する国際調査」(GTCI)と英語能力の間には強い正の相関関係が見て取れます[グラフA]。

アイデアを持ち寄る

オンライン上のワークベースト・ソーシャルメディアやコラボレーションツールは日々進化しており、遠隔地の同僚とより手軽に頻繁にコミュニケーションを取ることが可能になっています。一方、様々な業界で、関係者とのネットワーク構築や研究成果の共有、新たなアイデアを生み出す場として国際カンファ

レンスやサミットを開催することが当たり前となりつつあります。実際、2017年に国際団体連合(UIA)の目録に掲載された国際会議・コンベンションの数は、166か国、10,786件に上り、2018年に開催されたTEDxの数は3,700件にも上っています。

こうしたコラボラティブ・エコシステムがどんなにエキサイティングな仕組みで、最高のコラボレーションプラットフォームを用いていたとしても、従業員が同じ言語を話さなければ機能しません。また、これらの会議はほとんど全てが英語で行われるため、教師であれ、CEOであれ、英語を話せる人ほど、より広いネットワークを構築でき、より良い知識やアイデアへのアクセスを得ることができるのです。

知見の共有へ

今や最先端科学研究は複雑な共同プロジェクトを通して進められています。研究室に一人でこもって作業する時代は終わりを迎え、資金調達のために他の研究所チームの資料を引用するよう求められることも頻繁です。2017年にNature Indexに掲載された論文の60%が国際的な共同研究によるもので、その割合は過去最高となっています。一国の英語能力と人口あたりの科学および技術誌の論文数[グラフ B]や資金と人材の両面における研究開発への投資の間に強力な相関関係があるのは当然の結果と言えるでしょう。

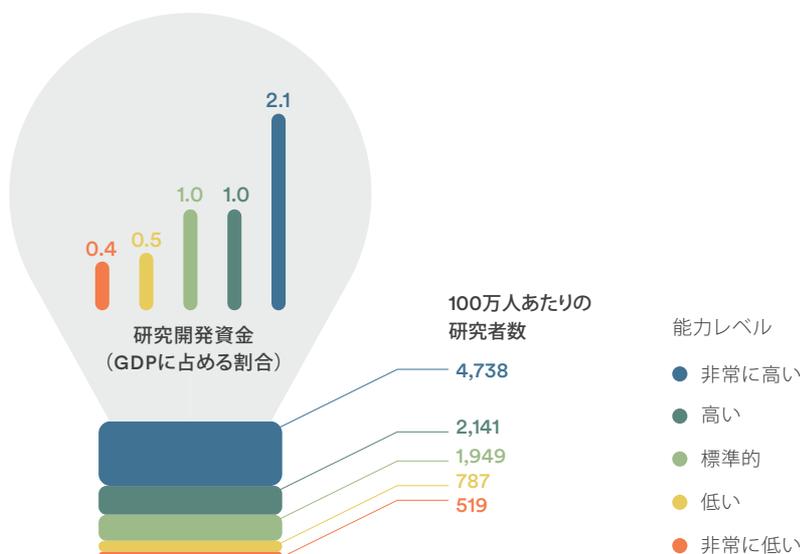
論文の発行数で言えば、中国が米国を徐々に追い越しつつあります。過去には、国際共同研究が不足しているため世界的な影響力はあまりありませんでしたが、英語で発表された論文は他言語に比べ論文引用の可能性が高まるため、2018年11月、エコノミスト誌はNatureに論文が掲載された中国人科学者に165,000米ドルもの報奨金が出されていることを報じました。

新しいアイデアが生まれる場所

多様性はイノベーションに影響を与えます。その影響についての研究は始まったばかりですが、すでに多くの研究のなかで、多様性のあるグループの方が均質なグループと比較して、意見よりも事実を重視し、偏見にとらわれることなく、よりよい意思決定を行えることが示されています。特に、文化の多様性はイノベーションと相関関係があります。マッキンゼー・アンド・カンパニーが2017年に実施した調査では、経営陣の文化的多様性が上位4分の1に入る企業は、業界最高水準の収益を上げる率が33%高くなることが分かりました。そして、英語能力は多様性を可能にします。2018年のトムソン・ロイターIXグローバル・ダイバーシティ&インクルージョン・インデックスの上位100社のうち、英語能力の低い国に本社があるのは7社だけでした。

素晴らしいアイデア

英語能力は、研究開発への公共投資や国民一人当たりの研究者および技術者数を含む数々のイノベーションの主要な取り組みと正の相関関係を持ちます。



引用元: 世界銀行(2016年)

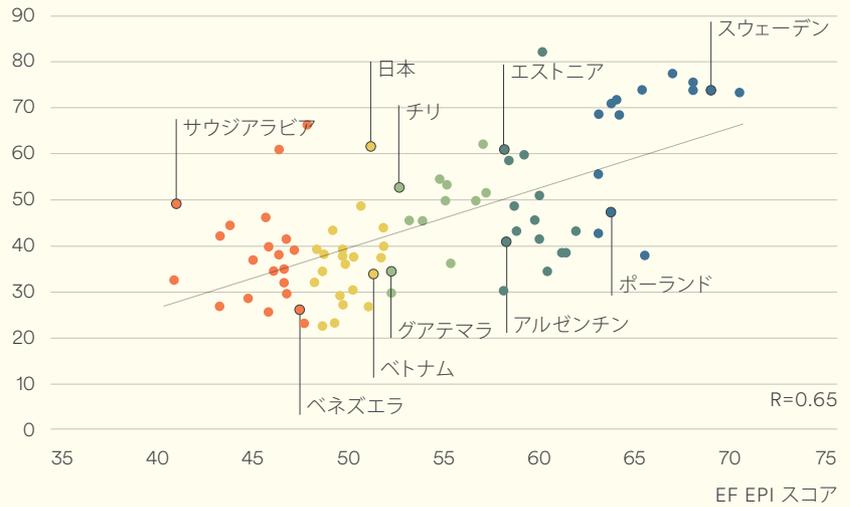
能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ A

英語と人材の質

世界人材競争力指数

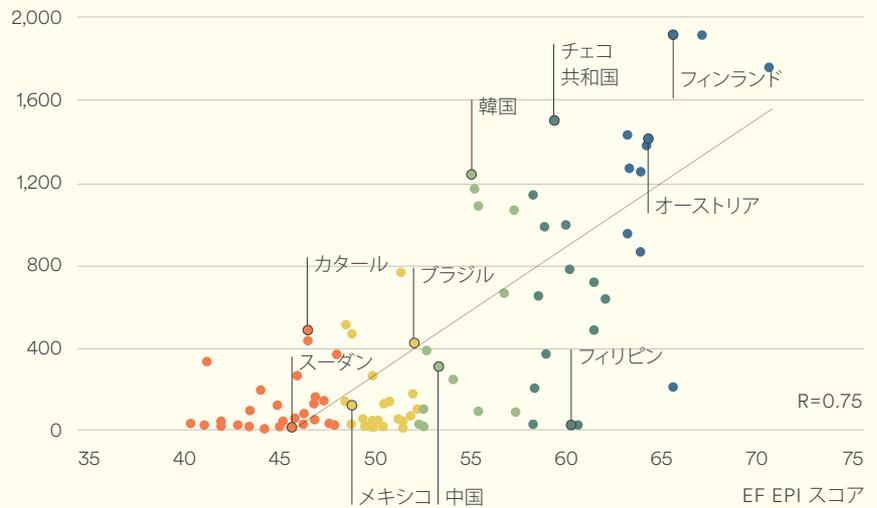


引用元: Lanvin & Monteiro (2019年)

グラフ B

英語と学問

科学および技術誌の論文数(100万人あたり)



引用元: 世界銀行 (2016年)

職場における英語

現代の職場環境は、デジタルテクノロジーの躍進、ギグエコノミーの広がり、個人消費におけるソーシャルキャピタルの価値観の出現などによって急速に変化しています。企業はグローバル市場で競争するだけは今や十分ではありません。企業は道徳的に行動すること、積極的に顧客に従事すること、さらにはブランドに傷が付く前に問題因子を排除することがより一層求められています。実際、エデルマン社が発表した信頼度調査「2019エデルマン・トラストバロメーター」では、自国政府を信頼していると答えたのは半数以下の47%でしたが、56%の人々が「高い倫理観や社会的関心を持つ企業を信頼している」と回答しています。

こうした企業を取り巻く環境の変化に伴い、社員教育へのニーズは急速に高まっており、各国の経営陣と専門職に従事する4,300人を対象に、MIT Sloan Management Reviewとデロイトが行っている調査「2018 Digital Business Global Executive Study and Research Project」では、回答者の90%が最低でも年に一度はスキルを更新する必要があると答えており、44%が人材開発には年間を通したトレーニングが必要であると回答しました。

また同時に、契約社員、フリーランス、パートタイム、ギグワークなどの非定型的労働人口が増加しており、これは、既存のトレーニングモデルの対象外となる人々が増え続けていることを意味します。社外の人材アセットを適正に管理し、労働力のエコシステムを最適化するためには、トレーニングや人材開発について新しい視点で考える必要があります。もし、こうした従業員が政府や企業からの金銭的支援を受け、公的なマイクロ credenシャル（細分化された資格や技能を個々に認めること）でスキルの通用性を証明でき、個人管理のトレーニングを実践することができたら、自主学習による解決法が見つかるかもしれません。

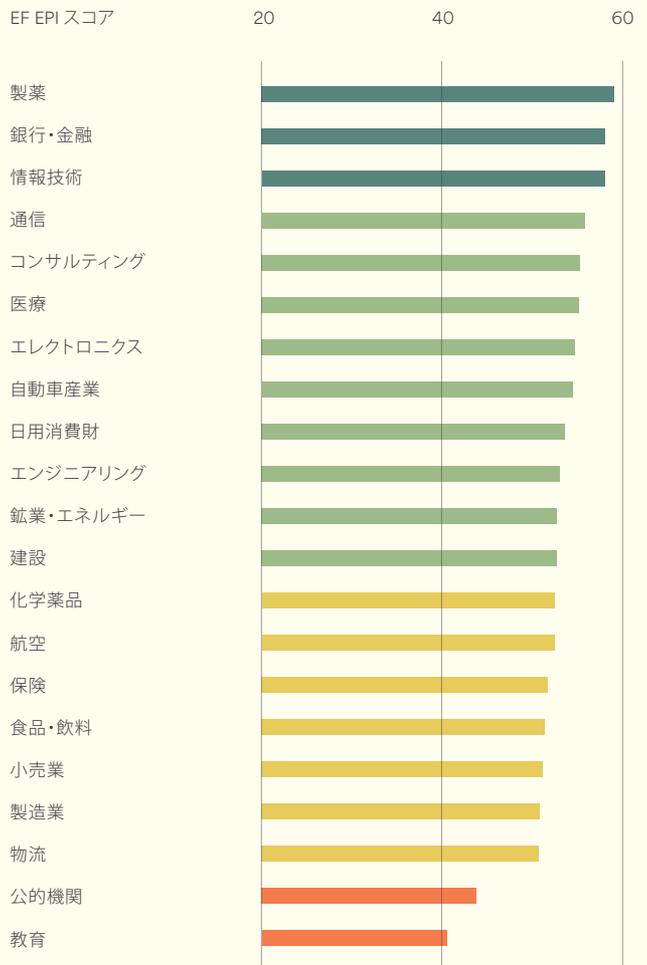
本データで測定された現在の労働人口の英語能力は、特定の業界や職種が目標とすべき英語レベルを示すものではなく、むしろ現在の世界平均の英語スキルを反映したものとなっています。プロフェッショナルの多くが、現在の職務また将来の新しい職務において完全な生産性を発揮できるほど英語の習得が十分とは言えないでしょう。人材開発担当者は今後、組織内の各職務、そして従業員一人ひとりに求められる英語能力について戦略的な視点を持つ必要があります。

公的機関 vs 民間

競争の激しい業界における英語能力は驚くほど似通っており、最も能力レベルの低い物流業界と最も高い製薬業界の差はわずか10ポイント未満です。一方で、公的機関従事者や教師は民間企業の従業員に遅れをとっています。

国ごとに分断されたサービスを提供しているセクターがあるとする公的機関に他なりませんので、考えるまでもなく当然の結果といえるかもしれません。しかしながら、英語教育、外交、研究、国際平和維持活動などを含む政府や教育に携わる多くの業務で直接的に英語が必要なだけでなく、あらゆる職務において英語を話すことで幅広いアイデアや事例、様々な人々にアクセスすることが可能になります。さらに、民間企業と同等の英語スキルを持つことで、経済や生活スタイルの変化に合わせてキャリア転換をすることもできます。終身雇用は過去のものとなりつつあり、公的機関と民間職員の間で英語能力の大きな差は、ネクストキャリアを見つけれない人材を抱えているという点で、政府にとって最大の懸念であるといえるでしょう。

業種別 EF EPI



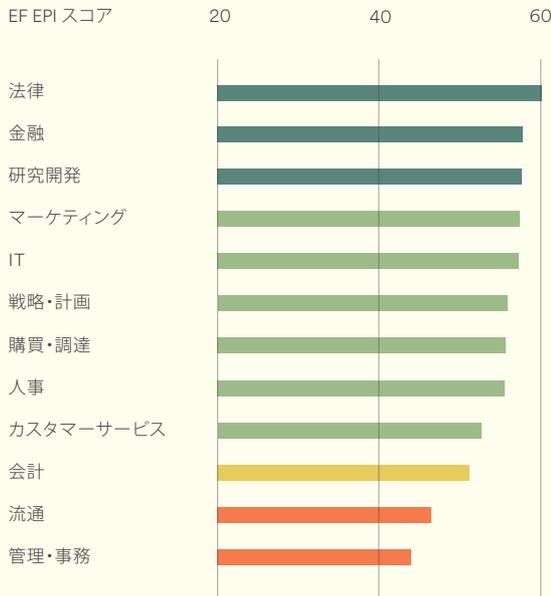
戦力外にならないために

現代のビジネスはハイレベルな協業で成り立っており、平等で階級制のない組織構成と社内ネットワーキング専用のツールが利用されています。こうしたイノベーションにより、企業はより機動的、革新的で、より公平な機会提供が可能になりますが、一方で本調査では、一部の組織がこうした改革の波から取り残されていることが分かります。事務、流通、会計、カスタマーサービスの職種では、他の職種と比較して平均的な英語能力が大幅に低くなっています。この能力差が足枷となり、これらの職種の従事者は多国籍チームで生産性を発揮できず、将来のキャリアも制限されてしまいます。マッキンゼー・グローバル・インスティテュートが最近行った調査では、3分の2以上の職務に、現在の技術で自動化可能な業務が多く含まれることが分かっています。業務の縮小とそれにとまなう新しい職務への適用を求められたとき、英語スキルが欠けていれば他の職位への異動が困難になるでしょう。

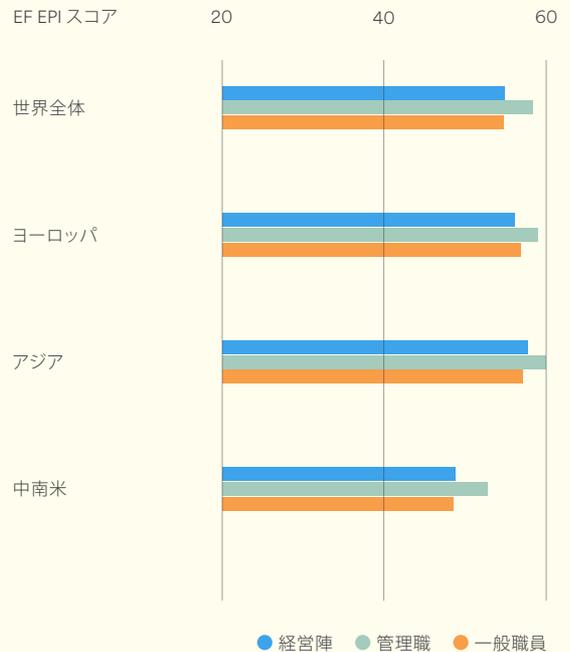
昇進と英語力

中間管理職は、経営陣や一般社員よりも英語力が高いということがデータによって示されています。特に、中南米地域では英語力の差が顕著に出ており、これは一般的に同地域の成人の英語力が低いからです。このことは、中南米地域においては「英語力の見えない壁」のようなものが存在しており、ジュニアレベルから管理職のポジションに昇進するにあたり英語力がない社員はこの壁にぶつかることを示唆しています。経営陣は通常、平均的な従業員よりも高齢であり、弊社のデータによると40歳を超える人々の平均的な英語習得度は著しく低くなっています。高い英語能力を併せ持つ経営陣候補を探すのは容易ではないかもしれません。

職務別 EF EPI



職位別 EF EPI



能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

英語と経済

リング・フランカ(共通語)は国境を超えた取引コストを削減します。英語の普及が広がるほど、節約できる金額も増えます。グローバル化の速度は緩やかになってきていますが、国際貿易は世界経済の大部分を占めており、世界の経済生産の約20%が輸出によるものです。弊社の分析においても、ビジネスのしやすさと国の英語能力、そして英会話能力と様々な物流関連の指数の間には常に密接な相互関係が示されています。

人的資本の開発

世界経済全体を見ると、高い英語能力はより高い国内総生産や総収入、あるいは生産性[グラフ C]とも相関性があります。誤解のないよう言うと、英語能力がこのような経済的成功を導き出すという証拠はありません。しかしながら、言語スキルと経済成長の間にある複雑な関係、例えば、裕福であるほど英語トレーニングの機会に恵まれ、それが経済的な競争力の強化につながっている等があり、英語が様々な形で経済成長に寄与していることが見て取れます。

発展途上国が知識ベース経済へ移行するには、インフラと国際的なサービスを提供できる人材の両方が必要になります。過去30年間、製造業が多くの新興経済の成長を後押ししてきましたが、製造業による成長が鈍化する中、国際貿易競争にさらされながらサービスセクターを経済成長の柱とするには、あらゆる世代を対象とした教育への注力が必要となるでしょう。その国の人的資本開発レベルと英語能力には相関関係があります[グラフ D]。

遠方からのサービス

グローバル経済活動に占めるサービス業の割合が増加していますが、商品に比べサービスは遠方へ輸出するのが困難です。iPhoneはどこへでも配送することができますが、同じように会計士を配送することはできません。英語能力とサービス輸出、そしてサービス業の従事者一人あたりの付加価値の間には相関関係があります。経済交流がより複雑になり、洗練されていくにつれ、言語能力に対する需要も高まっています。第二言語、もしくは第三言語として流暢な英語を必須とするMBAプログラムの数も増えています。

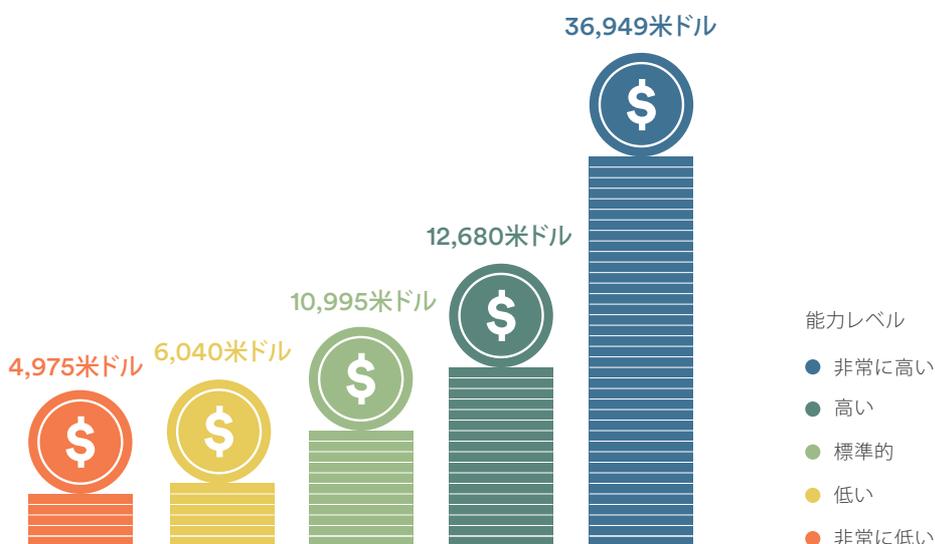
「私は英語を話せませす」は信頼の始まり

貿易パートナーとして同じ言語を話すことは技術的に必須であると同時に、信頼関係構築の基本でもあります。そのような信頼はデータにも反映されています。経済学者のパンカジ・ゲマワット氏は、同じ言語を共有している国々は、そうでない国々と比較して貿易が42%多くなると推定しています。技術やAIの補助による慣用表現の翻訳が急速に進んでいますが、人々の日常的なコミュニケーションに含まれる文化的なニュアンスを翻訳エンジンが理解できるようになるのはまだまだ先です。

言語保護主義者による英語のみのビジネス環境への批判とは全く異なり、現代の多国籍企業は多様な言語景観と向き合っています。最も迅速かつ安価なコミュニケーション方法として異なる言語の話者の中で英語を使用する傾向はありますが、その他の言語に対する投資も多く行われています。言語推進を支援する公的機関の推計では、少なくとも1億5千万人の人々が現在フランス語、スペイン語、または中国を外国語として学んでいます。ビジネスパートナーの母国語を学ぶことで大きな信頼を得ることができます。

英語は収入に繋がる

英語能力と国民一人あたりの調整後純利益を含む、様々な人材および経済、開発にかかわる指数の間には常に相関関係が見られます。



引用元: 世界銀行(2016年)

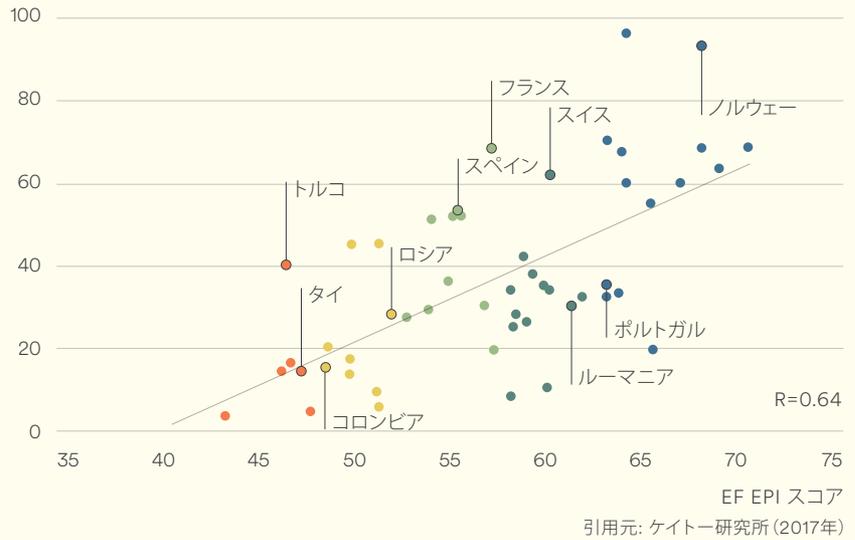
能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ C

英語と生産性

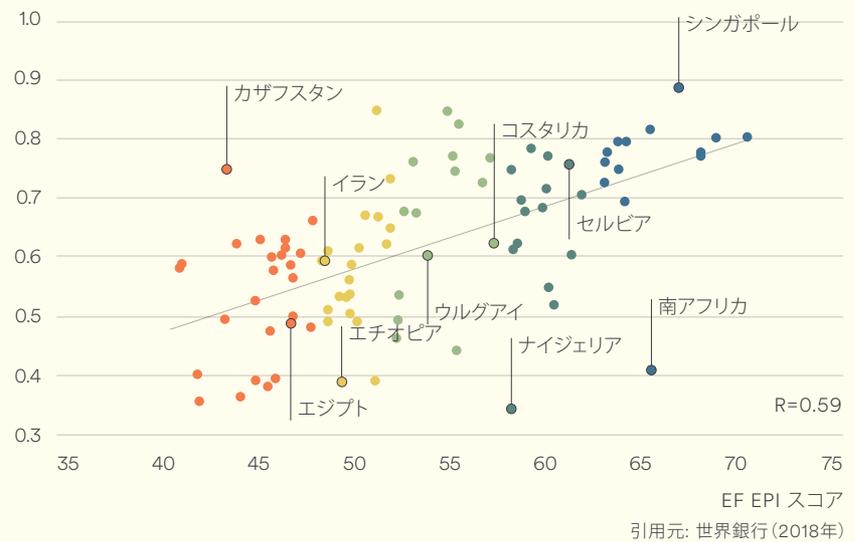
労働生産性 (米ドル、業務1時間あたり)



グラフ D

英語と人的資本

人的資本開発指数



英語と社会

成人の英語能力は社会の開かれ度合いを推し量る強力な指標です。成人が英語で話すことを習得した地域では、全体的に国際的な移動が活発になり、より政治的な関与が大きく、男女の役割に対する考え方が進歩的です。明確な因果関係があるわけではありませんが、英語をグローバルコミュニケーションのツールとして人々に受け入れさせる力は、社会の開放性を向上させ、格差を軽減する力でもあることを示唆しています。

権力のバランス

成人の英語能力は、組織内で権力を持たないメンバーがどの程度の権力格差を受け入れているかを測定するホフステッドの権力格差指数 (PDI) とも相関関係があります。この指数は職場環境および家族構成の両方における権力格差を認知することができます。PDIのスコアが高いほど、若年者が年配者の命令に従うことが求められる厳格な典型的階層的制度社会となります。このような社会では、大きな格差が許容されており、英語能力も低くなっています。その対極として、権力格差の少ない企業が成功し、格差に対する寛容度が低く、人物の年齢や勤続年数に関係なくアイデアに価値が認められる国々や地域もあります。そのような国や地域では、英語能力がより高くなる傾向があります。

内よりも外へ目を向けて

英語が階級制を直接弱体化させるわけではありませんが、社会の視野を広げる効果はあると言えるでしょう。英語学習への需要はかつてない高まりを見せていますが、もし国境を越えてコミュニケーションをとったり、旅行したりするつもりがなければ英語を学ぶ意味がありません。英語学習への需要の高まりによって、世界の他の国々の様子を自由に知ることができるようになります。弊社の調査でも、国の世界との繋がりと英語レベルの間に相関関係があること、さらには、英語と民主主義の指標、市民的自由権、政治的権利の間にも強固な相関性があることが分かっています。人々は海外と接触すると自国の社会について疑問を持つようになり、グローバルな問題にもより深く取り組むようになるので、多くの場合そのような動きが変化に繋がります。歴史を考慮せずに現在その国が人類にどれだけ貢献しているかを示す「良い国指数」[グラフ E]と英語の間には強力な相関関係があります。

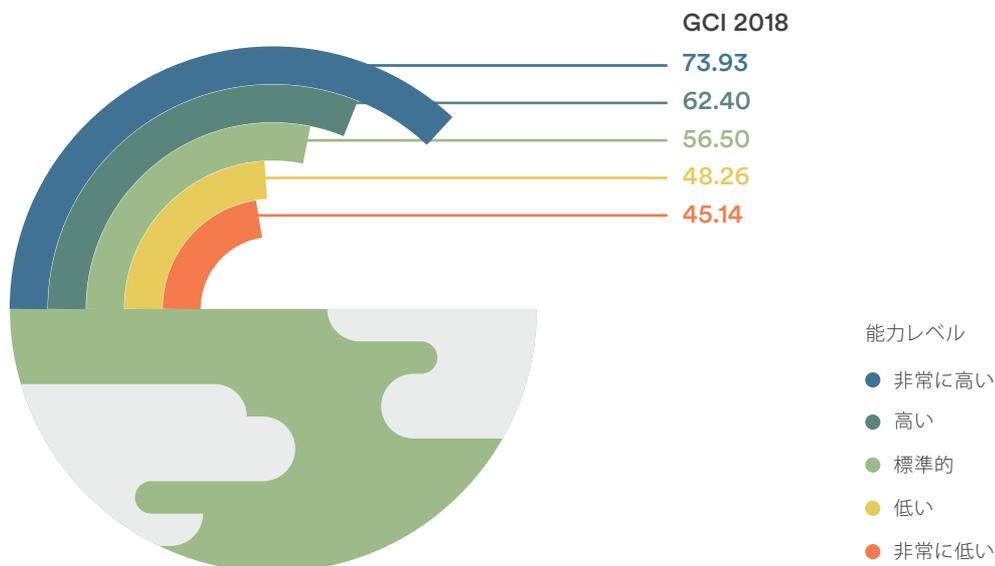
世界の半分

21世紀の能力豊かな労働力として女性は必要不可欠です。経済的に豊かな国と発展途上国の両方を含めた大多数の国々で、女性は男性よりも教育を受けています。しかしながら、給与の差、構造的な格差、賃金の発生しない家庭での仕事をするを求められる文化的背景などによって、女性の労働機会は制限されています。このような格差に構造的に対処することで、すべての国が得られるものは計り知れません。

男女の役割が進歩した社会では、人々の英語能力がより高くなります。世界経済フォーラムの『世界男女格差レポート』は経済活動、教育、政治的権限付与、健康における男女比を計測するレポートです。EF EPIにはこの指数と密接な相関関係があります[グラフ F]。繰り返しになりますが、単純な因果関係があるわけではありません。英会話が女性の権利を直接向上させるものではありません。と言うよりも、男女平等を重んじる社会はより経済的に豊かで、より開放的であり、より国際感覚が養われており、そのような社会に英会話能力が最も高い人々が暮らしていると言えます。

世界と会話する

英語を話せる人々は国境を越えた世界と関わり合うことができます。英語能力の平均と世界との繋がりには正の相関関係があります。



引用元: GCI グローバル連結性指標 (2018年)

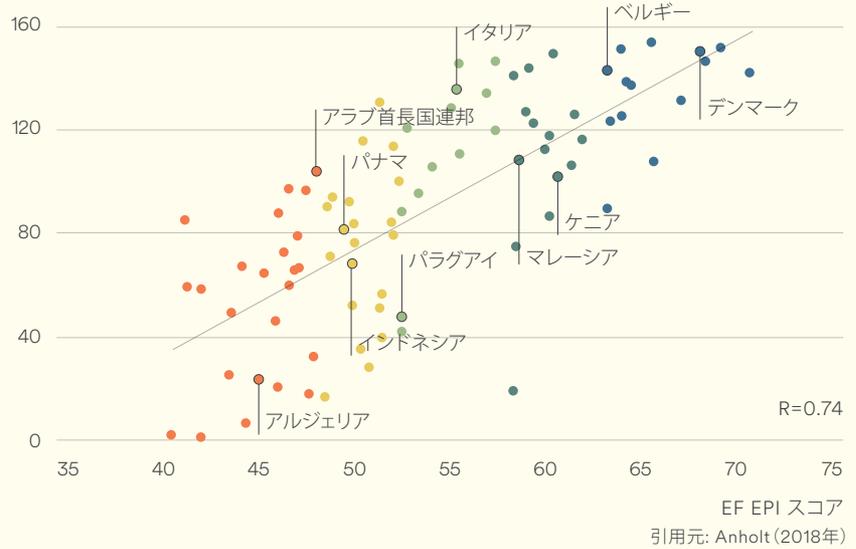
能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

グラフ E

英語と国際的な関与

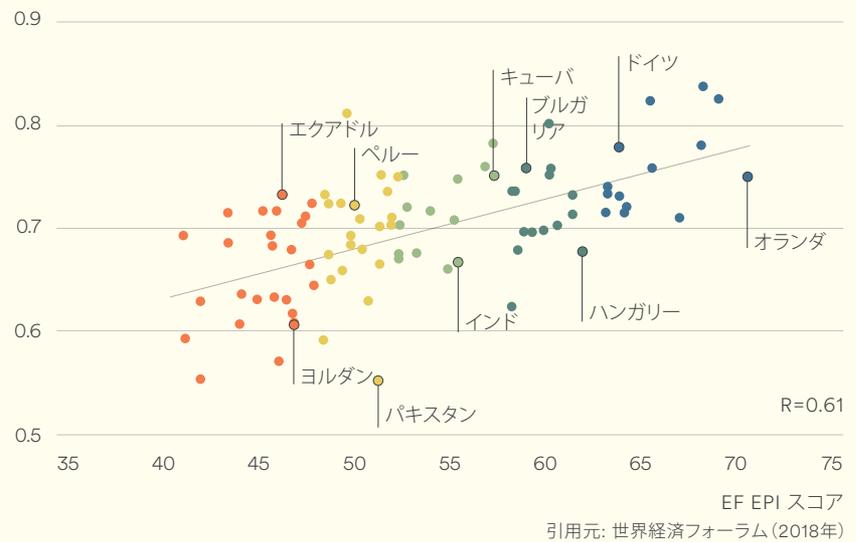
良い国指数 (逆)



グラフ F

英語と男女平等

世界男女格差指数



ヨーロッパ

EF EPI ランキング

01	オランダ	70.27	14	クロアチア	63.07	31	フランス	57.25
02	スウェーデン	68.74	15	ハンガリー	61.86	32	ラトビア	56.85
03	ノルウェー	67.93	16	ルーマニア	61.36	35	スペイン	55.46
04	デンマーク	67.87	17	セルビア	61.30	36	イタリア	55.31
07	フィンランド	65.34	19	スイス	60.23	47	ベラルーシ	52.39
08	オーストリア	64.11	21	リトアニア	60.11	48	ロシア	52.14
09	ルクセンブルグ	64.03	22	ギリシャ	59.87	49	ウクライナ	52.13
10	ドイツ	63.77	23	チェコ共和国	59.30	50	アルバニア	51.99
11	ポーランド	63.76	24	ブルガリア	58.97	56	ジョージア	50.62
12	ポルトガル	63.14	25	スロバキア	58.82	79	トルコ	46.81
13	ベルギー	63.09	28	エストニア	58.29	85	アゼルバイジャン	46.13

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



共通言語を通じた相互連結へ

平和推進のための理想主義的なフォーラムから始まった欧州連合は、共通言語によって政治的、経済的に世界で最も強固に統合された連合へと進化しています。

ヨーロッパは他の地域に大差を付けて英語能力が最も高く、EUとシェンゲン圏諸国だけを抜粋した地域平均と比較するとその差はさらに大きくなります。この成功は各国の教育行政機関とEUが数十年に渡って実施してきた多言語使用を推進する取り組みの成果といえるでしょう。スピーディで容易なコミュニケーションがヨーロッパ人同士の結びつきを強め、交換留学、旅行、国境を越えた仕事も同様にヨーロッパ人同士の結びつきを強めています。世界的に広がりつつある国家主義がEUプロジェクトの障害となっていますが、これに対抗するヨーロッパの結合力は強健です。

足並みを揃えて

最も英語能力の高い国々はスカンジナビア半島に集中していますが、地域全体としても2017年以降非常に高い英語能力に位置する国々が増加しています。英語能力の高いこれらの国の学校制度では、コミュニケーションスキル習得への早期の取り組みや、教室内外での日常的な英語への接触、また専門学校、大学を問わず最終学習フェーズでのキャリアに特化した言語指導など、いくつもの戦略的な重点施策が実践されています。EUの強固なデータ収集と情報共有のネットワークも同盟諸国に最善の施策を広める助けとなっています。

多くの英語コースは期間が短すぎたり、難易度が低すぎて効果的でない場合も見られますが、ヨーロッパでは企業や政府が出資する成人研修プログラムも充実しています。今後は、転職の際にスキルを担保するクレデンシャルとして一般に認知された外部の認証制度を設けることで、中高年の英語学習を後押し、ヨーロッパ地域の英語能力をさらに伸ばすことができると考えられます。

精彩を欠く同盟諸国

ユーロ圏の4大経済国のうち、英語を上手に話せるのはドイツだけです。フランス、スペイン、イタリアは同盟内のほぼすべての他諸国に遅れをとっており、この結果はこれまでのEF EPI全版に共通しています。この3か国の中で、過去2年に小幅な向上を見せたのはフランスだけです。最近の政府レポートによると、15歳の時点で、「大体正しい」英語でいくつかの文章を繋ぐことができたフランス人は全体のわずか4分の1で、フランスでは今年、新たな教育改革が発表されています。

弊社のデータによると、スペインの英語能力は2014年から下降を続けており、スペインの公的調査機関CISによる最新の調査では、成人の6割が英語を全く話せないと回答しています。スペインでは、公立の小中高校を、カリキュラムの最大30%を英語で指導するバイリンガルスクールに変換する大規模プロジェクトが進行中ですが、その効果は、現在のところ成人の英語能力の計測には現れていません。

イタリアとスペインは特に若年層の高い失業率に苦しんでおり、ヨーロッパの他地域と迅速かつ円滑にコミュニケーションをとることで創出されるであろう新しい経済機会を切実に必要としているため、この英語能力の差は特に懸念されます。

東は西に追い付かず

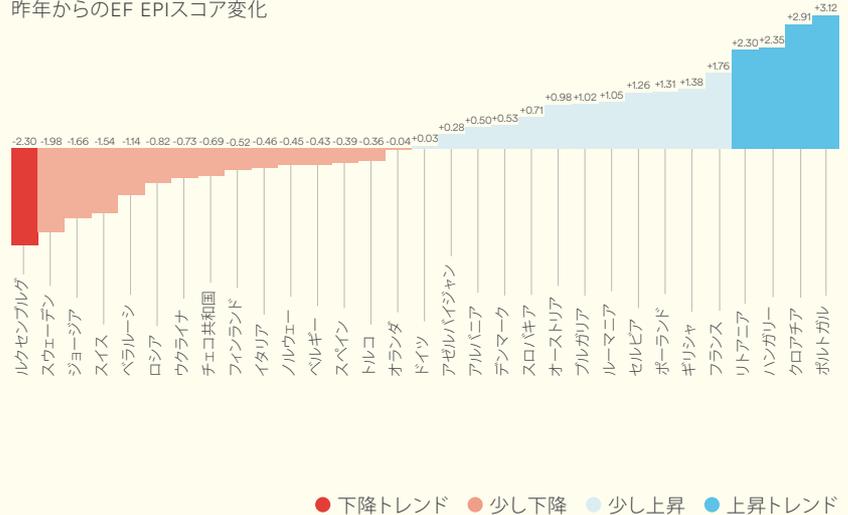
ヨーロッパ大陸の縁辺諸国では英語スキルが依然として遅れています。トルコではEU参加の夢が消えつつある中、英語能力が過去5年間下降を続けており、優先順位が英語から他に移っています。学校の英語指導では実践的なコミュニケーションスキルよりも文法や翻訳が重点的に取り扱われており、授業の大部分でトルコ語が使用されています。また一部授業を英語で行っていたような数百校のエリート高校は政治的な理由で閉校されました。湾岸諸国と同様、トルコの高校を卒業した生徒たちの多くは英語能力レベルが低く大学で学位を取得できないため、大学に入学する前に1年間の英語集中準備コースを受けなければなりません。

ロシアの英語能力も向上していません。ロシアのスコアは過去5年間の間、現在の能力レベルの前後1ポイント以内を上下しています。2014年の調査では70%のロシア成人が外国語の知識を全く持たないと回答し、英語で会話ができると回答したのは11%だけでした。

EF EPIトレンド

ヨーロッパは昨年よりさらに大きく変化しました。ポルトガル、クロアチア、ハンガリー、リトアニアは大幅に向上し、ルクセンブルクは大きく下降しました。ヨーロッパでは、3か国が高い能力レベルから非常に高い能力レベルに、3か国が標準的な能力レベルから低い能力レベルに推移しており、EU加盟国以外のヨーロッパ諸国の下降に伴い両極化が顕著になっています。

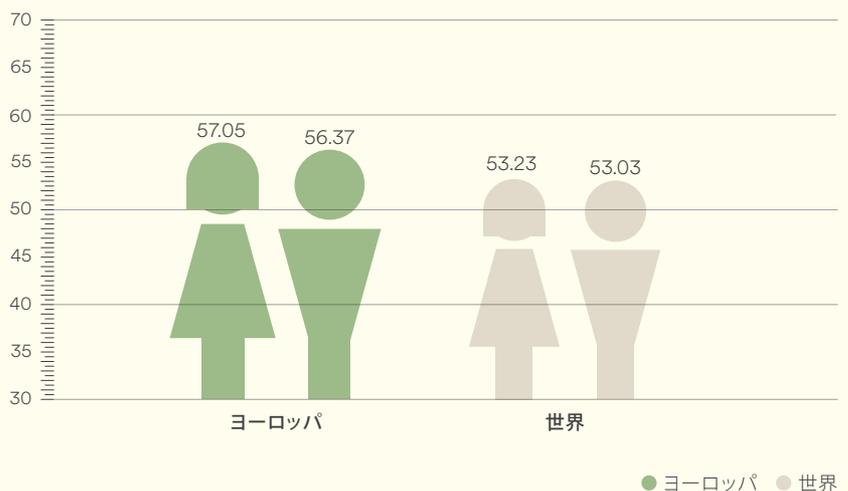
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

前年度から引き続き、ヨーロッパでは女性のスコアが男性を上回りましたが、その差は昨年の3ポイントから1ポイント未満へと今年は大幅に縮まりました。それもそのはず、地域内の半数以上の国で男性のスコアが女性を上回っており、デンマークとルーマニアでは大差が付いています。ハンガリーでは、逆に女性が大差を付けて上回っていますが、本指数に含まれるヨーロッパ諸国の大半では、男女の差が1ポイント未満となっています。

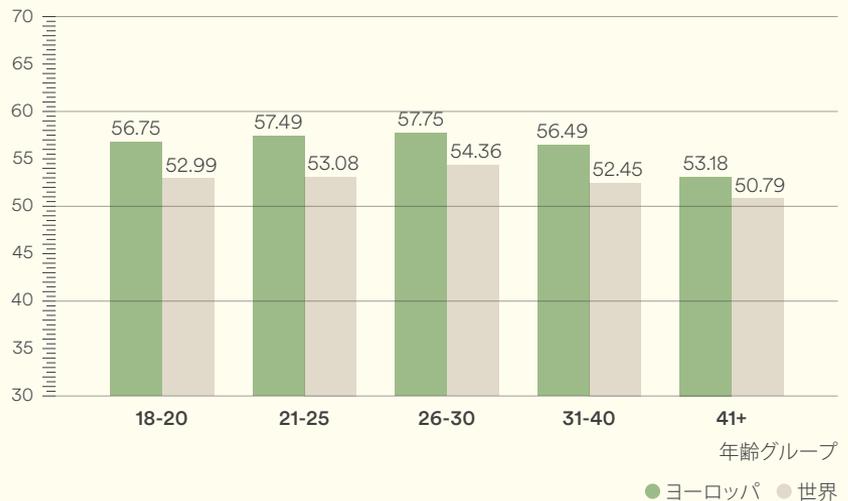
EF EPI スコア



世代間の差

ヨーロッパの年齢グループ別の英語能力は昨年とほぼ横ばい状態ですが、18~20歳のグループのみ小幅に下降しています。ヨーロッパ大陸で最も英会話能力が高い年齢層は20代後半の成人です。第三期教育課程において、キャリアを見据えた英語学習指導の拡大がこの結果に繋がっています。しかしながら、40歳未満のすべての年齢グループにおける能力差は世界で最も小さくなっています。

EF EPI スコア

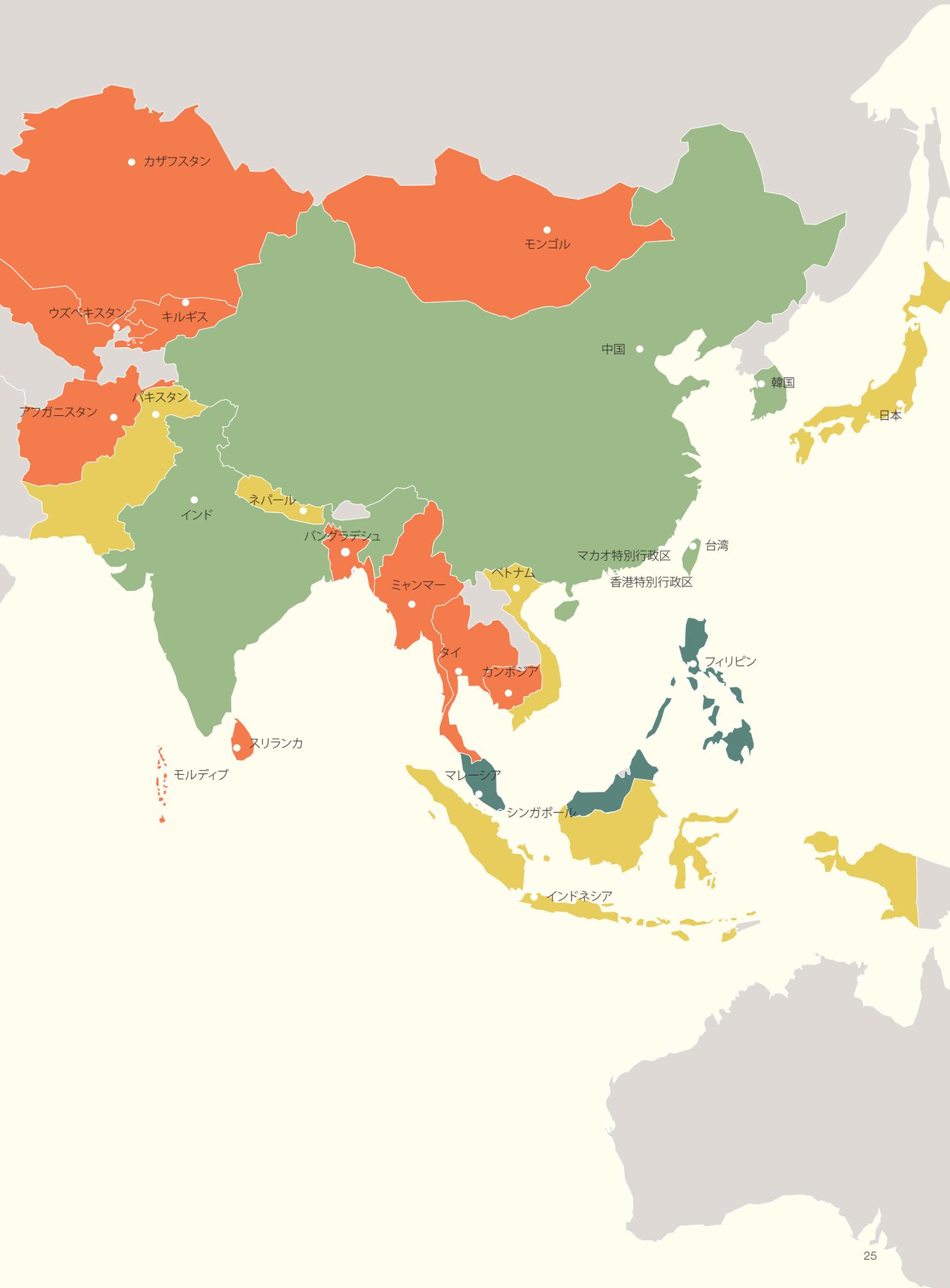


アジア

EF EPI ランキング

05	シンガポール	66.82	52	ベトナム	51.57	86	ミャンマー	46.00
20	フィリピン	60.14	53	日本	51.51	88	モンゴル	45.56
26	マレーシア	58.55	54	パキスタン	51.41	89	アフガニスタン	45.36
33	香港特別行政区	55.63	61	インドネシア	50.06	93	カザフスタン	43.83
34	インド	55.49	66	ネパール	49.00	94	カンボジア	43.78
37	韓国	55.04	71	バングラデシュ	48.11	95	ウズベキスタン	43.18
38	台湾	54.18	72	モルディブ	48.02	99	キルギス	41.51
40	中国	53.44	74	タイ	47.61			
41	マカオ特別行政区	53.34	78	スリランカ	47.10			

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



改善の余地

数十年に渡り、アジアは世界の工場として地域内の経済開発を加速させてきました。しかし、製造業から知識主導型の経済成長へと転換するためにはより高い英語能力が必要です。

英語教育への多額の投資にも関わらず、アジアでは官民ともに、過去5年間の英語能力の平均スコアに大きな変化は見られません。アジアはシンガポール(スコア66.82)からキルギス(スコア41.51)まで、英語能力レベルの分布幅が最も広い地域となっています。アジア地域の加重平均を見ると、人口の多い中国の英語能力の向上がその他の国々の下降を相殺した結果となりました。

英語教育の変革

外国からの投資と民間企業に門戸を開いてから40年が経過した中国は大きな変化を遂げました。1990年以降に減少した世界の貧困のうち3分の2が中国国内で起きました。2000年以降中国は世界レベルの科学コミュニティの構築と海外でのソフト・パワールの増築に焦点を移しています。中国はこれらの目的を達成するために英語能力が重要なカギになることを認識しており、国内全土の学校へ英語教育を拡大し、暗記主体からコミュニケーション主体の教育法に転換し、全国的評価ツールを改革し、海外で教育を受けた自国人材を中国に呼び戻すためにインセンティブを与え、国内屈指の大学を英語で発行されている上位の科学誌に論文を掲載する世界レベルの研究施設にするため投資を行っています。このように長期に渡る計画を実施し、国全体をコントロールできる政治指導者はほんの一握りしかいませんが、中国の戦略の柱は政策改革やターゲットを定めた投資が国民の英語能力をどのように向上させるかを示す模倣可能なモデルとなるでしょう。

子供だけではなく

アジアで最も人口の多い国々の一部では高齢化が急速に進んでいます。例えば日本では人口の28%が65歳を超えています。この人口分布の推移によって日本政府は高齢者に定年退職を遅らせるよう促しています。しかし、これらの経験豊かな従業員たちが変化の激しい職場で生産的であり続けるためには、キャリアの延長をサポートするために英語訓練を含む拡大された成人教育を提供する必要があります。経済が停滞し、世界貿易がアジア外へと移動する中で、英語能力が数年間下降を続けている日本は特にその必要に迫られています。

アジアで最も経済的に豊かな国々でさえ、職場外における成人教育への資金投資ではヨーロッパに遅れを取っています。このような資金繰りは長続きしません。労働人口の高齢化が進み、移民の受け入れも限定される日本や韓国などの国々は、労働者のスキル向上を促す必要があります。生涯学習のメリットは仕事だけではありません。研究によると生涯学習は認知症を予防することが示唆されています。

チャンスを秘めた国々

中央アジアでは学校で教えられている第2言語がロシア語である場合が多いため、英語能力がアジアの他の地域よりも大幅に低くなっています。しかしながら、中央アジアも旧ソビエト連邦の輪を超えた国際貿易へと方向転換を始めています。特にカザフスタンでは一対一路構想による新ユーラシア・ランドブリッジのように注目度の高いプロジェクトへの中国の関与が強まっています。2018年にはヌルスルタン・ナザルバエフ大統領が中国とカザフスタンが51件のプロジェクトに同意し、1,200社の合同企業が既に操業を開始していることを発表しました。中央アジアが世界貿易への進出を続ければ、英会話能力のある人材の必要性がより切実になるでしょう。

カンボジア、タイ、スリランカでは英語能力の欠如が経済の10%以上を占める観光業への雇用の妨げとなっています。比較的安価な給与と美しい風景を持つこれらの国々には毎年3千8百万人を超える観光客が訪れますが、観光客は主にリゾート地域に集中しています。観光収入を国内の他の地域にもより平等に行き渡らせ、観光業への就職を希望する人々の雇用を増やすには、学校ですべての生徒により良い英語教育を行う必要があるでしょう。

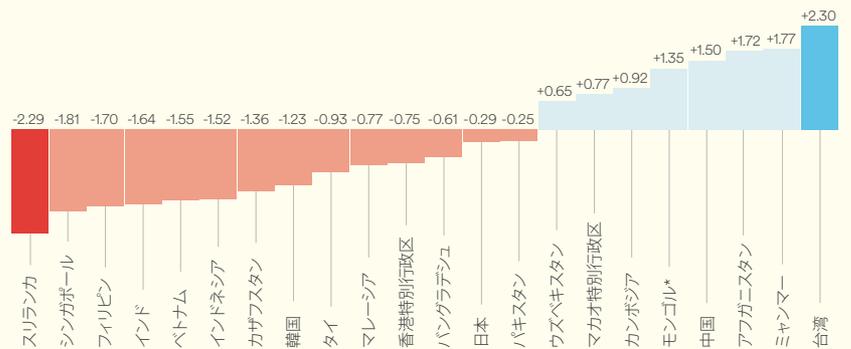
インドとパキスタンの教育制度は英語教育以前の問題に直面しています。世界の学校に通えない子供たちの13人に1人がパキスタンに住んでいます。インドで行われた最近の調査では、小学3年生で二桁の引き算ができたのは27%だけで、38%が簡単な言葉を読むことができませんでした。インドとパキスタンでは、生徒のほとんどが英語を話せないのに関わらず、多くの学校が指導言語として英語を使用しており、状況をさらに悪化させています。他の改革と合わせて、両国の政策者たちは生徒の母語で授業を提供する必要があります。そのような政策が主要科目の理解を助け、長期的には英語学習を助けることになります。

アジア経済は世界との繋がりと強固な多国籍企業を構築してきた指導者たちの導きによって、過去数十年に渡って並外れた成長を見せてきました。アジア諸国がサービス業や知識主導産業へと進出し、地域内で増加を続ける中流階級への雇用機会を創出するためには、人口の幅広い層に高品質の英語指導を提供することが必要不可欠です。多くの場合、学校における英語指導の改善を意味しますが、成人への指導も同等に重要です。

EF EPIトレンド

本年度のアジアでは大多数の国々と領域で全体的な英語能力の下降が見られましたが、下げ幅はほぼ2ポイント以内に収まっています。英語能力が大幅に向上したのは台湾だけです。2018年に非常に低い英語能力を抜け出したものの逆戻りしたスリランカを含め、6か国の英語能力レベルに変化がありました。

昨年からのEF EPIスコア変化



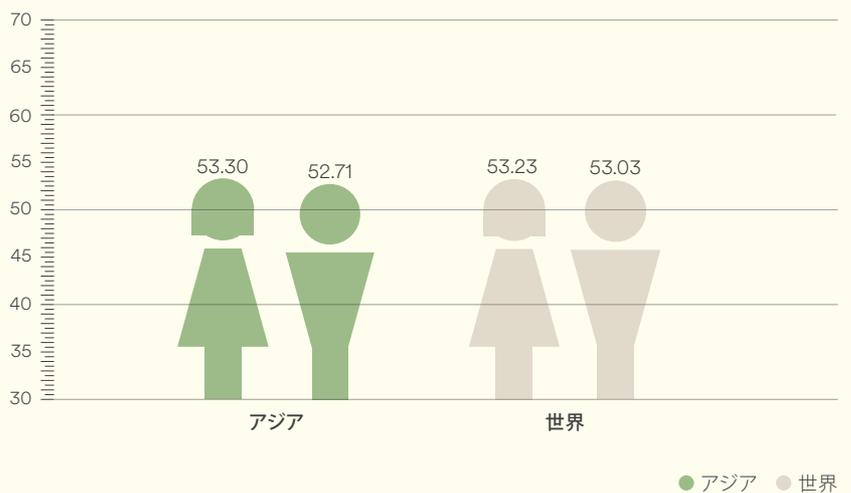
* この国はEF EPI第8版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

● 下降トレンド ● 少し下降 ● 少し上昇 ● 上昇トレンド

男女の差

アジアの男女の英会話能力の平均はほぼ同じですが、国ごとに見てみると男女の差が開いている場合もあります。本年度の調査対象となったアジア地域の半数以上で、男女の差が1ポイント以上ありました。アフガニスタンとモルディブでは女性のスコアが2ポイント以上男性よりも高くなっています。マレーシアでは大差を付けて男性のポイントが女性を上回っています。

EF EPI スコア

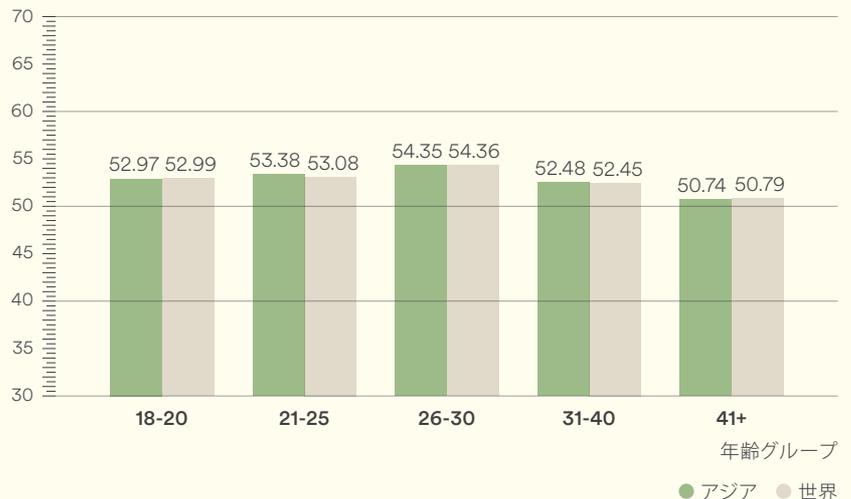


● アジア ● 世界

世代間の差

26～30歳の成人を除くすべての年齢グループの英語能力スコアが昨年を下回っており、本年度はヨーロッパと同様専門職に従事する20代後半の人々の英語能力が全体的に最も高くなっています。

EF EPI スコア



● アジア ● 世界

中南米

EF EPI ランキング

27	アルゼンチン	58.38	58	ペルー	50.22
30	コスタリカ	57.38	59	ブラジル	50.10
39	ウルグアイ	54.08	60	エルサルバドル	50.09
42	チリ	52.89	62	ニカラグア	49.89
43	キューバ	52.70	64	パナマ	49.60
44	ドミニカ共和国	52.58	67	メキシコ	48.99
45	パラグアイ	52.51	68	コロンビア	48.75
46	グアテマラ	52.50	73	ベネズエラ	47.81
51	ボリビア	51.64	81	エクアドル	46.57
57	ホンジュラス	50.53			

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



投資が結果をもたらす

数年間の停滞ののち、南米では英語能力向上に向けた取り組みが成果を上げ始めています。

本年度のEF EPIに参加した中南米19か国のうち12か国で、成人の英語能力が昨年よりも向上し、その中でも5か国は大幅な向上を見せており、世界で最も上昇傾向の大きな地域となっています。ブラジルとメキシコの下降の影響によって加重平均値の向上はわずかではありますが、地域全体としては期待の持てる傾向です。

投資の成果があらわれる時

過去20年間で中南米の諸国はすべての子供たちが教育を受けられるよう大きな進歩を遂げてきました。そして今、その努力は英語スキルへと移り変わっています。中南米のビジネスコミュニティではより多くの英会話能力のある人材を求め声が上がっており、中南米諸国の大多数がより良い英語をより幅広く教えるための教育改革を展開しています。成人の英語能力レベルだけからこれらの改革の成果を判断するのは時期尚早ですが、国家試験での生徒の結果は将来を期待できるものでした。成功モデルが地域内で苦戦している他の国々のロードマップとなるでしょう。

2年連続でコスタリカの英語能力は向上しました。コスタリカでは何十年も前から英語が学校での必須科目となっていました。中南米の他の国々とは異なり、教師トレーニングと雇用に多額の投資をしてきました。現在、英語はすべての中学校と87%の小学校で指導されており、ほぼすべての英語教師が第三期教育学位を保有しています。2015年の試験では、コスタリカの英語教師が中南米で最も高い言語習得レベルであることが証明されました。

2015年にウルグアイは英語能力を向上するための本格的な計画を開始し、現地に有資格の英語教師がいない学校に対して、遠隔で英語の授業を行う技術への投資を始めました。都市部のすべての公立学校では、校内または遠隔で英語の授業が受けられるようになり、教師用に拡張されたオンラインコースが教師のスキル向上を促しています。結果は今のところ良好で、2014年には小学校終了時にA2レベル以上の試験に合格する生徒は56%のみであったのが80%近くにまで向上しました。

ボリビアは中南米で最も貧しい国の一つですが、過去10年間に深刻な貧困率が半分にまで改善し、地方での学校の普及が大きく進歩しました。識字率も同様に上昇しており、弊社のデータでも英語能力が昨年から2.77ポイントも向上しています。

安定性から生まれる成長

治安の悪化が顕著な中南米では、殺人率による世界で最も危険な50の都市に中南米の42の都市がランクインしています。その内、メキシコの都市が15、ブラジルの都市が14となっています。この二つの大国では2017年以降英語能力が下降しており、この結果と治安のレベルを直接結びつける証拠はありませんが、どちらも国家サービスの脆弱性を示唆する指標であると言えるでしょう。

エルサルバドル、ニカラグア、ホンデュラスは暴力など劣悪な環境がフォーカスされる国々ですが、安全と治安維持の面で大きく進歩しました。2015年以降、エルサルバドルの殺人率は半分にまで改善し、ホンデュラスでも2011年以降同様の改善が見られます。これら3国では、昨年より英語能力が大幅に向上しました。決して安全な国ではまだありませんし、繰り返しとなりますが、治安のレベルと英語能力の間に単純な繋がりがあってもありません。しかし、人々が安心して自由に仕事や学業に取り組める環境は、社会の繁栄と密接な関係があることは事実です。

不均等な普及率

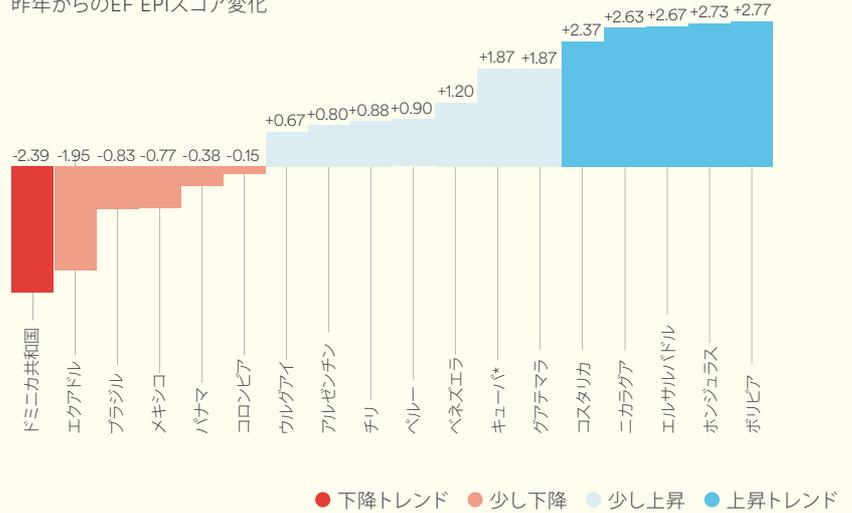
中南米のほぼすべての国々で英語を学校での必須科目とすることが法律で定められていますが、英語の授業の普及率はばらつきがあります。メキシコの一部の地域では法的な義務があるにもかかわらず、英語の授業を行っている学校は10%未満です。2014年のエクアドルでは7%未満でした。英語教育の普及率の格差は地方と都市部、そして私立と公立の学校の間で顕著です。一部の国々では、職場での英語の需要は高く、学校での教育が非常に低質であるため、専門職に従事する多数の人々が英語レッスンに投資しています。ブラジルで2015年に実施された調査では、調査対象の成人の87%が学校教育終了後に有料の英語コースを利用したことがあると回答しました。

EF EPIトレンド

本年度、中南米の3分の2の国で英語能力が向上しており、そのうち5か国が大幅な向上を見せました。ドミニカ共和国だけがわずかに下降しています。6か国の英語能力レベルが上のレベルに昇格し、標準的な能力レベルに含まれる中南米諸国の数は2倍超に増えました。これらの変化にも関わらず、中南米のスコアの差は以前として小さなままです。最高スコアのアルゼンチンと最低スコアのエクアドルの差は僅か12ポイントです。

* この国はEF EPI第8版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

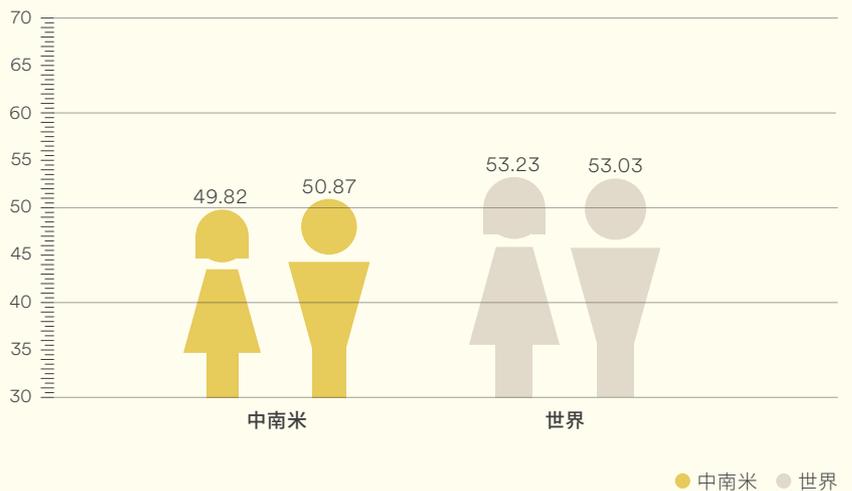
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

中南米では今回初めて男性のスコアが女性を上回りましたが、他の地域と同様、男女の差はわずかです。半数以上の国で男性のスコアが女性を上回り、メキシコとパナマでは2ポイントを超える差があります。男女の差が逆転している国も少数ありますが、その差はわずかです。

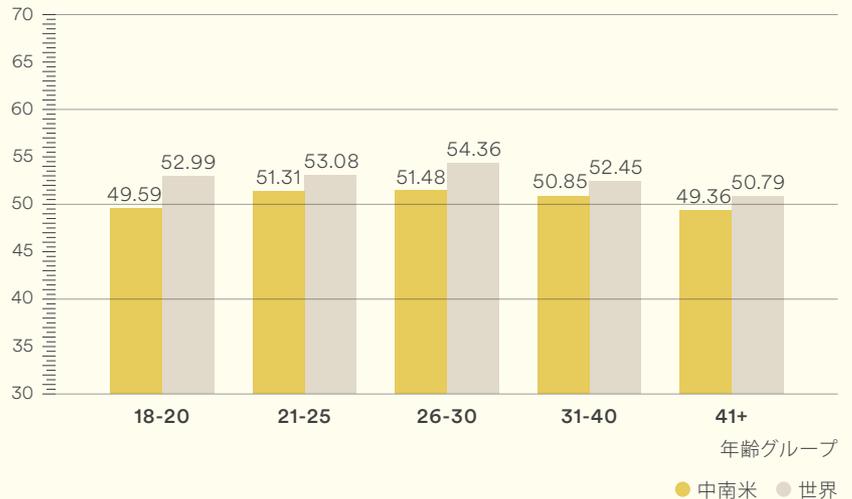
EF EPI スコア



世代間の差

中南米では高齢成人の英語能力が向上し、若年成人は向上しませんでした。世界の他地域の分布結果と比較すると、中南米でも平均的に40歳以上の成人と新卒者の英会話能力が高くなっています。しかしながら、中南米は年齢グループ間のスコアの差が小さく、2ポイントほどしかありません。中南米では成人教育への政府の資金投入が不足しており、高齢成人が向上しているのは、企業の訓練プログラム、自己投資、英語のメディアへに触れる機会が増えたことによるものでしょう。

EF EPI スコア

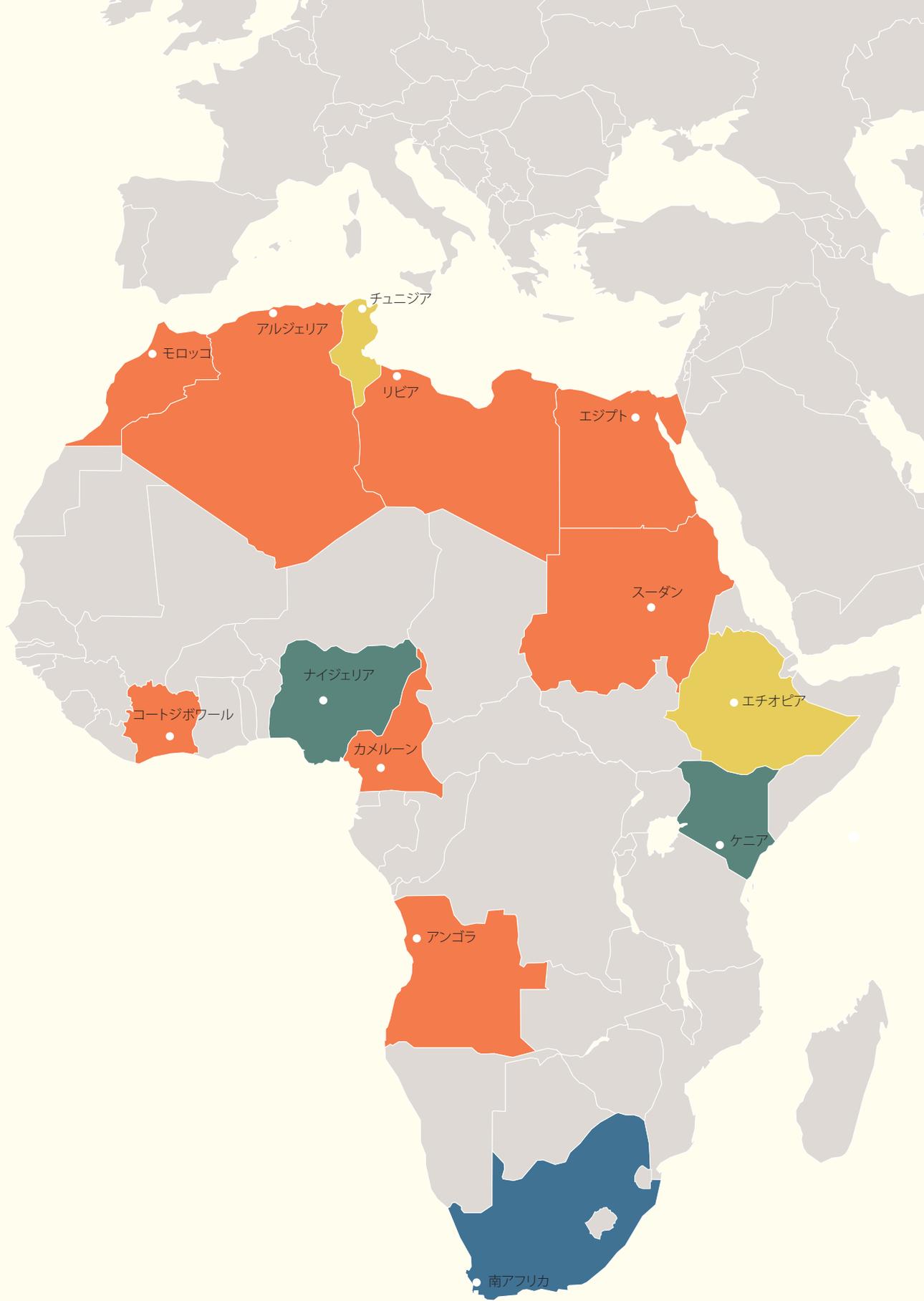


アフリカ

EF EPI ランキング

06	南アフリカ	65.38	83	カメルーン	46.28
18	ケニア	60.51	87	スーダン	45.94
29	ナイジェリア	58.26	90	アルジェリア	45.28
63	エチオピア	49.64	91	アンゴラ	44.54
65	チュニジア	49.04	96	コートジボワール	42.41
76	モロッコ	47.19	100	リビア	40.87
77	エジプト	47.11			

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



新しい世代、新しい機会

アフリカでは過去10年間で、インフラとビジネスプロジェクトへの外国投資が急増しました。より高い英語能力がこのような国際協業をさらに強固なものにするでしょう。

アフリカを植民地支配していたヨーロッパ諸国、特にフランスはアフリカ諸国と長年に渡り密接な関係を維持してきましたが、最近のアフリカ大陸への外国投資の流行を先導しているのは中国です。現在のアフリカは大規模インフラプロジェクト、貿易取引、振興ビジネスベンチャーで賑わっています。2010年から2016年の間に、320を超える新しい大使館や領事館がアフリカに開設されました。しかし、植民地時代の抑圧に象徴される、大陸の富が略奪されてきた過去が長い影を落としています。より高い英語能力が、海外投資家とアフリカのパートナーが透明性の高い契約を取り交わし、協力を円滑に進めるのに役立つでしょう。

気になる差

本年度の指数では、アフリカの3大経済国であり、指標の上位にランクインしていたケニア、ナイジェリア、南アフリカとその他の10の参加国の間には大きな能力差がありました。残念ながら、本年度十分なデータが集まり、指数に含めることができたアフリカ諸国は13か国に留まりました。これまでで最も多い数ですが、それでも大陸全体の明確なイメージを捉えるには少なすぎます。英語能力の高い国と低い国との間に大きな差があるかもしれませんし、本データが示唆するよりも多様なスキルレベルの分布が存在しているかもしれません。当面は、今後の指数がより完全な結果となるよう、より多くのアフリカ成人が英語テストを受験するよう促していくしかありません。

格差はアフリカ全土に蔓延しています。都市部では、高層ビルをスラム街が取り囲んでいる風景がよく見られます。都市部と地方における生活水準の差も同様に厄介です。このような格差の背景には、構造的そして歴史的な理由がありますが、急速な人口増加と都市化が問題をさらに深刻化させています。国連は今後35年間でアフリカの人口が2倍に増加すると推測しています。アフリカ大陸には世界で最も急成長している30の都市部うち、21か所が含まれています。アフリカの教育制度はこのような大人数の若者たちを教育する準備が整っておらず、ヨーロッパに対する移住意欲が依然として高く、教育が不十分な大勢の若年層が失業に苦しむ可能性が懸念されています。

母国語教育

植民地時代の名残で、アフリカ人はヨーロッパの言語と高い社会地位を結び付けて考える傾向があります。その結果、現地の学校制度は地元の言語よりも英語やフランス語を優先的に使用して教える傾向があります。

今こそこの習慣は見直すべきでしょう。多くの研究結果で、母語で読み書きを教わらなかった子供たちには永久的に不利益が生じることが報告されていますが、エチオピア、エリトリア、タンザニアを除くサハラ砂漠以南のアフリカのほぼすべての国の教育制度が植民地時代の言語を指導言語として採用しています。指導言語を英語から子供たちの母語であるコム語に切り替えたカメルーンで12の学校を調査した最近の結果では、コム語で5年間の教育を受けた子供たちが英語を含めたすべての科目でより良い成績を収めたことが分かりました。ケニアでも今年から小学校で毎日のスワヒリ語の授業を導入しましたが、指導の大部分は依然英語で行われています。

アフリカの国々には多様な言語景観が存在し、母語による教育に切り替えるにはカリキュラム構築への多額の投資が必要となります。しかし、すべての子供たちが母語で読み書きをできるようにすることは投資に見合う価値があります。複数の共通語が使用されている地域では、コミュニティを他のコミュニティやさらに広い世界へと結び付ける橋渡し役として英語やフランス語のような国際的な言語を話す利点があります。多言語使用のコミュニティで教育指導言語を決定するのは非常に困難ですが、すべての子供たちが母語で数年間教育を受けられるようにする恩恵には、いかなる困難をも乗り越えて達成すべき価値があります。

労働市場への参加

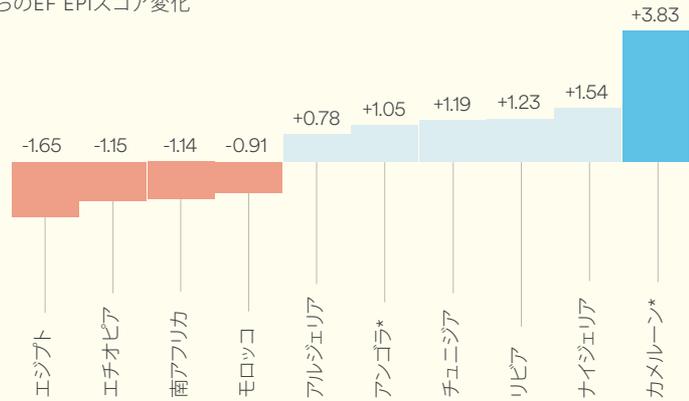
北アフリカの成人の英語能力は同年齢の中東の成人と同様のレベルです。アルジェリア、モロッコ、チュニジアには複雑な言語景観があり、アラビア語の方言複数、ベルベル語、フランス語、現代標準アラビア語が私生活、教育制度、公共の場でそれぞれ異なる役割を担っています。英語は比較的新参の言語ですが、その中立性とビジネスの可能性から価値が高まっています。アルジェリア、リビア、チュニジアでは、昨年より英語能力が緩やかに上昇しましたが、若い人材を競争の激しい国際市場に対当する企業家にするためには、英語教育にさらなる投資が必要になるでしょう。

より広く門戸を開き世界との交流を増やすことが北アフリカにとって経済的、そして社会的に大きな利益となるでしょう。北アフリカでは若年男性の4分の1が失業者しており、男女平等の面でも依然として世界で最も低いパフォーマンスとなっています。家庭の外で仕事を持つ女性はわずか26%で、同じ職種の男性よりも給与が30~50%低くなっています。このような、男女格差やメディアが扇動するテロリズムへの恐怖、英語スキルの欠如などが混ぜ合わさって北アフリカの「他者化」に繋がりに、同地域が切望している経済的機会から遠ざかっています。

EF EPIトレンド

本指数に含まれているアフリカ諸国の大部分では英語能力レベルに大きな変化はありませんでしたが、ナイジェリアとチュニジアの能力レベルが上昇しました。カメルーン(去年はデータ不足のため指標に含まれませんでした)とナイジェリアは2017年から2019年の間に大幅な向上を見せています。エジプトはアフリカで唯一2018年から能力レベルが降格した国です。

昨年からのEF EPIスコア変化



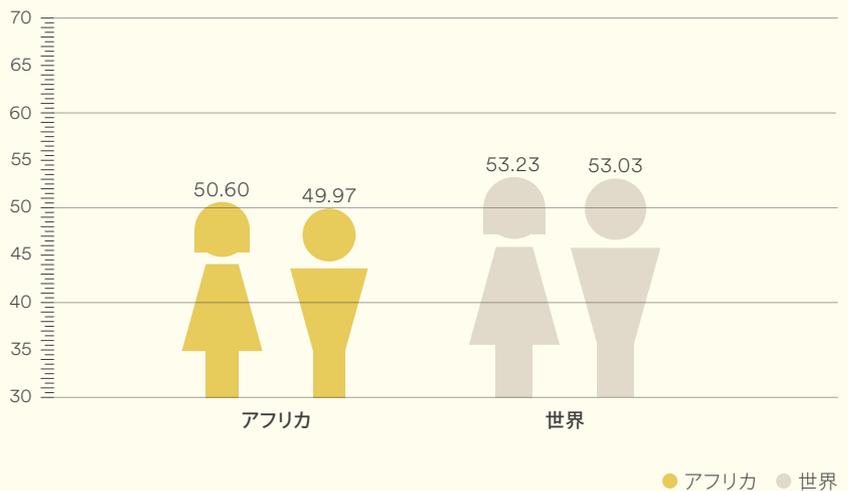
* この国はEF EPI 第8版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

● 下降トレンド ● 少し下降 ● 少し上昇 ● 上昇トレンド

男女の差

アフリカでは女性の英語能力の平均が男性を上回っていますが、男女の差は昨年よりも小さくなっています。エジプトと南アフリカを除くすべてのアフリカ諸国で女性のスコアが男性を上回っており、エジプトと南アフリカの男女の差は非常にわずかです。

EF EPI スコア

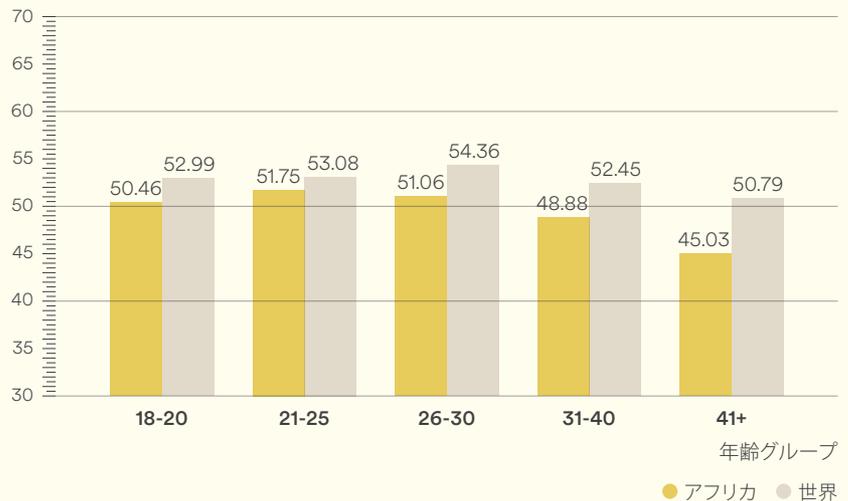


● アフリカ ● 世界

世代間の差

アフリカでは若年成人の英語能力が一番高く、30歳未満と30歳以上の成人の間には大きな差があります。若年層の人口が非常に多いこの大陸にとって、これは明るい将来を期待させる良いニュースです。他の地域と同様、英会話能力が一番高かったのは最も若い成人年齢層ではありませんでしたが、21~25歳が最も高く、26~30歳が次に高くなっています。これらの若年成人グループは職場で英語を使用する機会があります。英語を実用することの影響は明らかです。英語は練習によって向上します。

EF EPI スコア



● アフリカ ● 世界

中東

EF EPI ランキング

55	バーレーン	50.92	82	シリア	46.36
69	イラン	48.69	84	クウェート	46.22
70	アラブ首長国連邦	48.19	92	オマーン	44.39
75	ヨルダン	47.21	97	イラク	42.39
80	カタール	46.79	98	サウジアラビア	41.60

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



変化の準備は整った

かつては科学、文学、貿易、文化の最前線であった中東ですが、現代では最先端の研究や経済生産の脇役に徹しています。しかし、この地域には大きな変化が訪れつつあるかもしれません。

中東では人口の半数が30歳未満であるため、公営企業ですべての若者を雇用する余裕がないことは明らかです。さらに、石油と天然ガスが豊かな国々は、炭素依存型経済の終焉に近いことを認識しています。過去20年間、これらの国々は教育により多くの投資を行ってきました。膨大な若い人口の数を考慮した賢い決断です。

若者たちの機会

湾岸諸国は過去20年に渡り高等教育制度の改革を進めてきました。他の改革と共に、政府指導者たちは公立大学の独占状態を緩和し、欧米諸国で経験をつんだ学者を迎え入れて英語で授業を行う私立教育機関を支援しています。アラブ首長国連邦(UAE)とカタールの当局は、欧米諸国の有名大学を招待してサテライトキャンパスを開設しています。この競争により、公立の大学も改革を迫られ、カリキュラムの国際化や学位過程の一部を英語指導に切り替える動きが進んでいます。

残念な結果

残念ながら、学生に基本的スキルを教える動きは進んでおらず、多くの国で生徒を高校から大学に進学させるためのプログラムを採用せざるを得ない状況です。地域全体の識字率は急速に向上しましたが、最新のPISAテストの結果では中東から参加したヨルダン、カタール、UAEの3か国の15歳のスコアは読解、数学、科学のすべてで最低標準レベルとなりました。小学4年生の数学と科学を対象とした最新のTIMSSテストでは、世界で最もスコアの低かった11か国のうち8か国が中東の国でした。弊社の分析でも同じ結果が出ています。中東地域の英語能力は世界で最も低くなっています。

英語能力が今以上に向上していないのは、ある意味驚くべきことです。中東は多様性のある地域です。この地域にあるほとんどの国々では、人口の30%が海外で出生しています。これらの移民の一部は入国時にアラビア語を話せませんが、大部分の移民は話せません。さらに、UAEとサウジアラビアでは、100万人近い生徒が英語を指導言語とする私立の小中高の学校に通っており、世界の留学生人口でも20%を占めています。湾岸諸国の高等教育機関の多くでは、コースの一部またはすべてを英語で指導しており、政府出資の奨学金により、20万人を超える大学生が学位取得のために米国や英国に留学しています。それでもなお、この地域の英語レベルは依然として低いまです。

待ち受ける困難

多くの国々で、英語教育資源の普及の格差が問題となっています。例えば、弊社の分析結果によるとドバイとテヘランの英語能力は国全体の能力レベルよりもずっと高くなっています。サウジアラビアの人口は開発格差の散在する広大な地域全体に広がっており、学校で利用できる英語指導のレベルは多岐に渡ります。英語を話せる成人の数が少ない国では、すべての学校に有資格の英語教師を配属することが困難であることは誰の目にも明らかですが、中国のような大国も、同じ問題の解決に取り組んでいます。問題の解決策として中東の私立学校や大学の多くが海外から教師を雇っていますが、現地で英語を話せる教師を育てる方がより持続性のある解決策となるでしょう。

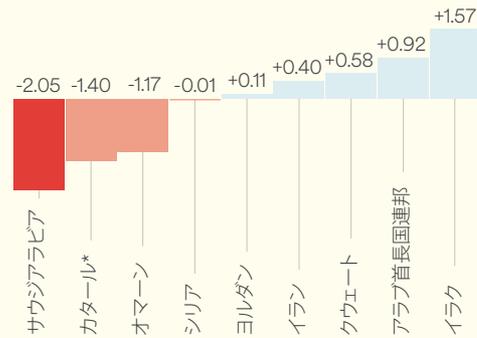
その他の国々では、難民の大量受け入れによって教育制度に無理が生じ、資源を基本的なサービスの提供に使用することを余儀なくされています。100万人以上のアフガニスタン人がイランに住み、200万人を超えるパレスチナ人と100万人を超えるシリア人が人口1千万人に満たないヨルダンに住んでいます。イラクのように過去20年間の混乱をもとめず英語能力が向上した国もあります。イラクの英語能力の伸び率は中東地域で最も高くなっています。

若い世代にグローバルな労働力として必要なスキルを身に付けさせたい中東の国々は、脆弱な経済、終わらない紛争、公的機関への行き過ぎた雇用依存などの困難に直面しています。これらの困難を乗り切れば、地域に変革をもたらす効果が生まれ、中東地域の低い英語能力の向上が変革の重要な一端を担うでしょう。地域内に緊張があり、世界のエネルギー市場が変化し続ける中でそのような変革がスムーズに実現するのか今後も見守っていく必要があります。

EF EPIトレンド

大幅に下降したサウジアラビア、能力レベルが昇格したイランを除き、中東諸国では本年度の指数で大きなスコアの変化はほとんど見られませんでした。中東は世界で最もスコアの差が小さく、最高スコアのパーレーンと最低スコアの国との差はわずか9ポイントです。

昨年からのEF EPIスコア変化



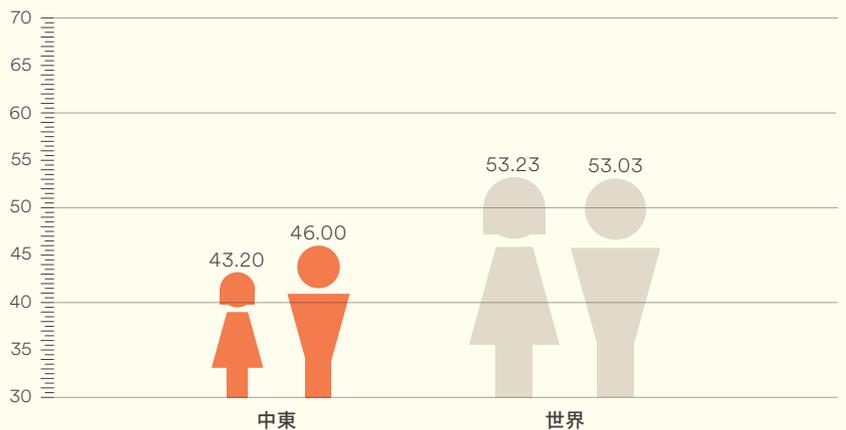
* この国はEF EPI第8版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

● 下降トレンド ● 少し下降 ● 少し上昇 ● 上昇トレンド

男女の差

本年度、中東では大きな英語能力の男女の差が見られました。地域内のすべての国で、大学生の50%超を女性が占めていますが、残念なことに、卒業後に働く女性ははるかに少なく、学校で学んだ英語を使用する機会がほとんどありません。

EF EPI スコア

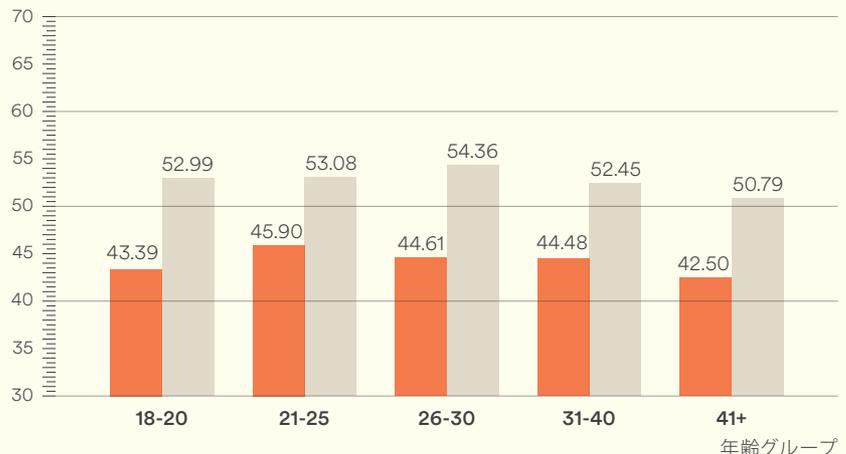


● 中東 ● 世界

世代間の差

中東では年齢グループ間における能力スコアの差も比較的小さくなっています。残念ながら、18~20歳と21~25歳のグループの英語能力が大幅に落ち込んでいることから、学校での英語教育が以前と比べて改善されていないことが示唆されます。中南米と同様、中東の新卒生の英会話能力は40歳以上の成人とほぼ同じレベルです。

EF EPI スコア



● 中東 ● 世界

結論

英語は世界で群を抜いて最も広く学ばれている第二言語です。

英語は世界で群を抜いて最も広く学ばれている第二言語です。ヨーロッパの中高生の97%が英語を学んでいます。アジアと中南米のほとんどの国々でも英語が学校の必須科目となっています。アフリカの大多数の国が指導言語として英語を使用しています。EFで言語を学習している人々の90%超が英語を選択しています。

英語教育に多額の公的および民間の投資がされているにも関わらず、結果は歯がゆいほどまちまちです。教室で何年も指導を受けた生徒の多くが会話をすることができません。キャリアで求められる英語スキルに到達できない専門職に従事する人々は自分の可能性に限界を感じています。

英語能力の供給と需要の間にこんなにも不一致が生じているのは何故でしょうか？大きな原因は、職場で急速に英語の価値が高まったことに因ります。1989年、インターネットはまだ一般に普及していませんでした。英語はあまり教えられておらず、教えられているとすれば選択科目の一つとして提供されていました。そこから、30年間を早送りすると私たちが今いる英語を共通言語として使用する密接に繋がった世界となります。Cambridge Englishによると、世界全体の4分の3の企業が自社のビジネスにとって英語が重要であると回答しています。1989年から現在までの数十年の間に学校に通っていた人々が、世界の労働力の主力メンバーです。中には十分に英語を話せる人材もいますが、大部分が話すことができません。

クリックして、よき教師にめぐりあう

テクノロジーがこの問題を助長しています。一方で、テクノロジーが問題の解決にも役立つかもしれませんが。子供たちにノートパソコンを与えても明らかに効果はありませんが、新しいツールの使用法について教師を教育することを含めた真のデジタル化は英語のクラスに大きな利益をもたらすでしょう。EdTech(エドテック)は生徒と本物の英語教材と練習モジュールを繋ぎ、教師による生徒一人ひとりに合わせた指導を可能にすることができます。チャットボットが生徒の会話練習の相手となるので、大人数のクラスで自分の順番を待つ必要がなくなります。教師は指導科目に特化した支援、コーチング、専門能力の開発をより定期的に受けることができます。

世界の大多数の国が該当しますが、有資格の英語教師が不足している国々では、将来的に指導教材とAIが搭載されたデバイスで生徒が基本的な英語を自習で学習できるようになるかもしれません。現時点では、教師を訓練するという急務が何よりも重要です。繰り返しになりますが、テクノロジーは助けとなります。多くの教育行政機関が英語やその他の科目において、教師の訓練プログラムを徹底的に整備し、現職の教師のスキル向上させることが最優先事項であるべきだと認識しています。技術を活用して大規模な教師トレーニングを実施することは、現実的に有り得るでしょう。

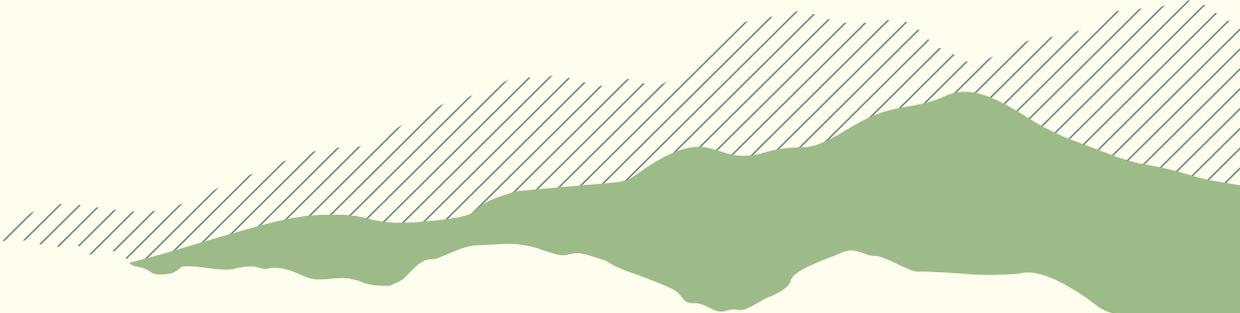
永遠に生徒

子供の脳は特に言語学習に適用していますが、成人が英語を学ぶことができないという考えは完全に反証されています。急速に進化する社会では、人生の最初の4分の1でその後の人生でキャリアを成功させるために必要なすべてのことを学ぶことは期待できません。仕事の仕方も変わっていく中で、生涯学習へと文化を根本的に変えていくことが必要かつ不可欠でしょう。

技術の将来性からより大きな恩恵を受けるのは、どちらかと言えば成人です。オンライン英語学習の柔軟性は、企業トレーニングや個人のスキル向上に最適です。教師のネットワークの広がりによって、地元では利用できないような高品質の指導をより安価に受けることができます。英語学習に対するマイクロレデンシャルが広く定着すれば、学習者であるビジネスプロフェッショナルにとってもあるいは行政機関にとっても、語学学習は投資価値のある取り組みであることが再認識されるでしょう。

素早く簡単にという幻想

インターネット上には、「英語を学ぶための3つの素晴らしいヒント」「5つの簡単なステップ」「誰でも始められる10のこと」、などのブログが散乱しています。もしそんなに簡単なことならば、誰でも英語を話せるようにな



っているはずなので、英語能力のある人材への需要もないでしょう。現実には、英語を話すことのできない成人が平均的な職場で十分に英語で対応できるレベルの能力を習得するには、少なくとも600時間の高品質な指導と600時間の会話練習が必要です。母国語が英語と全く異なる人や、上級レベルの英語スキルが必要な人、外国語を学習した経験のない人はさらに時間を要するでしょう。

素早く簡単に言語を学習できるという幻想が、期待通りの進歩が見られない学習者に不満を引き起こします。学習者の多くが1週間あたり数時間だけの英語コースを選び、それで十分だと考えているのです。学習者の大半が学習時間が1,200時間に満たないまま途中でやめてしまいます。このような幻想が、雇用主や政府の見当違いな大規模な英語トレーニングへの投資にも繋がっています。実際に英語を話す機会がない限られた学習内容のプログラムを選んで投資を行っているのです。安価が売りのプログラムも、結果を計測すればその魅力を失います。時間をかけずに練習せずに言語を学べるといった幻想をなくすことで、公的機関と民間の両方における投資効果が向上するでしょう。

同じ言語を話す

世界中の多くの国々に共通して、英語を指導言語とする学校に対し誤った理解を抱いているケースが見受けられます。指導言語として英語を使用することは生徒が自宅で英語を話す地域や、正当なバイリンガル教育プログラムの一環としては完璧に理に適っていますが、それ以外の場所では問題を引き起こします。大規模で信頼性の高い研究機関の多くが、読み書きができ基礎的な数学知識を持つ成人に育つためには、生徒は自分の母語で読み書きを学ぶ必要があると報告しています。この結果は中国語、スペイン語など、広く用いられている言語を母国語とする人々にとっては当たり前聞こえるかもしれませんが、数百と存在するステータスの低い言語を母語とする人々には母語による教育が提供されていません。

生徒、両親、教師も英語を殆ど知らないにも関わらず、植民地時代の歴史から英語が特別なステータスを持つサハラ砂漠以南のアフリカ、インド、パキスタンでは特に問題が蔓延しています。英語を話せるエリート層は自分たちに有利な制度を変更することを望まず、子供たちにエリートの仲間入りをさせ

たい親の間では指導が英語で行われる学校に人気があります。しかし、複数の大規模なテスト機関が、子供たちが理解できない言語で英語能力の低い教師から教育を受けると、英語を学ぶことができず、それどころか、どの教科も学習できないことが示されています。

世界全体としての英語能力は過去最高となりました。この結果には世界各地で実施されてきた大小様々な規模の幾千もの取り組みの成果が反映されています。しかしながら、全世界が共有する言語の取得への道のりはまだ長いと言えます。人々には繋がりたい欲求があり、また繋がる必要もありますが、未だに何億人もの人々が取り残されています。政府、教育制度、企業には、すべての人々が英語と英語によって開かれる可能性から恩恵を受けることができるよう、さらなる取り組みが求められます。

提言

組織や個人の多くが現代社会における英語能力の利点を確信しています。しかし、すべての人が英語能力を高める方法を知っているわけではありません。

英語を学習するためのソフトウェア、ウェブサイト、クラス、留学プログラムに対する需要がかつてないほど高まっています。人々が確信を持っていないのは、組織、国、学校、そして自分自身の英語能力を高める方法です。多くの人が結果の出ない方策に多くのお金と時間を無駄にしてきたことでしょう。多くの人が雇用機会を逃して悔しい思いをしています。実際には、すべての状況で効果を出す万能な解決策は存在しません。しかし、最も成功している英語プログラムには共通している特徴があります。

企業向け

- 各従業員に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する
- 支店を含め、国際性と可動性を大切にした企業文化を構築する
- 異なる国々にいる従業員同士が頻繁に連絡を取とりやすくなるプラットフォームを使用する
- 事務管理部門を含むすべての職務で、様々な国籍の従業員を含む多様性のあるチームを構築する
- 従業員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する
- 従業員の役割に合わせてチューンナップされた英語カリキュラムで従業員を訓練する
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする
- 英会話能力の高い人材を雇用する
- 英語を向上するために時間をかけた従業員に褒賞を与える
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる

公的機関および教育委員会向け

- カリキュラムで利用可能な時間数と教育の主要な節目ごとに達成できる能力レベルを提示する
- 教師と生徒の両方に対して幅広い評価を行い、学習開始時の基準をベンチマークに継続的に進捗を追跡する
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する
- すべての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法の再訓練を行う
- 指導に十分な英会話能力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者を訓練する

- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える
- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据えて、すべての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する
- 職業安定所と失業対策プログラムで英語指導を提供する
- 成人に生涯教育プログラムを提供する
- 政府によって資金投入された成人向け言語コースが、受講者が目標を達成するのに十分な期間、集中的に提供されるようにする
- コースの品質を証明してスキルの通用性を高める、標準化されたマイクロレディンシャルを構築する
- テレビ番組や映画の吹き替えを行わず、字幕を使って原語で放送されるようにする

教師および教育機関向け

- コミュニケーションに重きを置いた指導法を使用して英語を教える
- 英語クラブ、テーマデー、クラス単位のツイニングプログラム、遠足、ゲストスピーカーなどの活動を通して、生徒が英語を話す機会を頻繁に設ける
- 英語教師が優れた指導法を共有し、効果的に英語を教えるためのアドバイスを得られるようフォーラムを開催する
- 教師が自身の英語向上に取り組めるよう明確な道筋を示す
- 大学のすべての専攻で英語を必須科目にする
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する

個人向け

- コツコツ続ける一次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを見込んでおく
- 段階が上がるにつれて能力が向上していることに目を向け、自分の成長を褒める
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する
- 一度に何時間も勉強するのではなく、20～30分間勉強する
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに試してみる
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする
- 英語を話す国へ旅行をする際は、できるだけ会話をする

この指数について

分析方法

このEF EPI第9版は、2018年にEF英語標準テスト(EF SET)または弊社の英語実力テストを受けた230万人を超える受験者のテストデータを基にしています。

EF 英語標準テスト (EF SET)

EF ESTは、オンラインで受けられる読解力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力をCommon European Framework of Reference (CEFR) によって定義された6つのレベルの一つに分類できるよう設計されています。EF SET はすべてのインターネットユーザーに無料でご利用いただけます。EF EST の研究および開発についての詳細は、www.efset.org/research/をご参照ください。

EF EPI 2019の各国スコアには、TOEFL iBT 2017の各国スコア($r=0.80$)およびIELTS Academic Test 2017の各国スコア ($r=0.74$)と強い相関関係があることがわかりました。このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロフィールに違いがありながらも、国の英語能力において同様の傾向があることが分かります。

受験者

EF EPI英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性回答者はサンプル全体の59%を占めています。
- 成人受験者の年齢の中央値は23歳です。
- 全回答者の83%が35歳未満、99%が60歳未満となっています。
- 男性回答者の年齢の中央値は24歳、女性回答者の年齢の中央値は23歳で、男性の中央値が女性の中央値をわずかに超えています。

この指数には、受験者数が400人以上の受験者の都市、地域、国のみデータが使用されていますが、受験者数が400人をはるかに超えている場合がほとんどでした。前年度のEF EPIに含まれていたセネガル、レバノン、スロヴェニアは、本年度は受験者数が400人に達しませんでした。

サンプリングの偏り

この指数の中に表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。英語を勉強したいと思っている人、あるいは自分の英語スキルを知りたいと思っている人だけがこの試験を受けているため、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果になっている可能性があります。しかしながら、テスト結果は個人使用のみを目的としており、受験者には不正行為によって利害に関係ないこのテストの点数を上げるとするような動機は存在しません。

この試験は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人なら誰でも参加することができます。受験者の大多数が成人労働者または学業を修了したばかりの若年成人です。インターネットにアクセスできない人は自動的に除外されてしまいますが、EF SETのサイトは完全適応型で、受験者の30%がモバイル端末で受験しています。

インターネットの使用率が低い地域の結果では、オンラインの普及状況の影響を大きく受けていると考えられます。このようなサンプリングの偏りは、低所得や教育を受けていない人々を含まないことにより、一般人口の平均スコアよりも実際のスコアを高くする傾向があります。それでもなお、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指数についての膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルについて価値のある情報を提供するのだと弊社は信じています。

スコアの計算法

EF EPIスコアの計算は4種類の英語テストと2018年のEF EPI指数を含む、5つの加重要素を使用して行っています。前年度とのスコアの差を安定化させるために前年度の指数を含めていますが、前年度の受験者数は本年度の受験者数には含まれていません。地域平均は人口によって加重されています。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。能力レベルは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)とEFのコースレベルの基準で区切られています：

- 非常に高い英語能力は、CEFRレベルのB2に相当します。
- 高い、標準的、および低い英語能力は、CEFRレベルのB1に相当し、各能力グループがそれぞれ一つのEFコースレベルに相当します。
- 非常に低い英語能力は、CEFRレベルのA2に相当します。

その他のデータソース

EF EPIは、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。このようなデータセットはお互いを補完し合うものであります。1つの年齢グループ、国、地域、受験者プロフィールだけに焦点をあてた精細な情報も存在していま

す。EF EPIは共通の評価方法を用いて、世界中の労働年齢の成人を幅広く調査しています。これだけの規模と照準を持ったデータは他には存在しないため、いくつかの制限はあるものの、弊社は多くの政策立案者、学者、分析者とともに、英語教育について世界的な議論をする際の価値ある参照基準になると考えています。

EF EPIはEUROMONITORやGALLUPなどの世論調査組織が行っている調査やOECDが行っているPISAやPIAACなどの技量調査とは全く異なった作業手順で作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育レベル、収入などのさまざまな要因を使って調査参加者を選択しています。このような調査の回答者数は小規模になる傾向があり、多くても数千人の参加者となりますが、複雑なサンプリング手法を使用して調査を行うことにより、その結果は人口全体の傾向を表すと考えられています。残念ながら、このような英語スキル調査が国際レベルで実施されたことはありません。

英語能力に関するもう一つの参照データは、国家の教育制度によって作成されたものです。多くの学校が標準化した全国的評価試験を使って高等学校の全生徒や大学の受験者の英語スキルの評価を行っています。試験の結果は、公開されているものも非公開のものもあるかもしれませんが、教育者と政府関係者は教育改革の有効性の評価や、改善が必要な分野を特定するために試験結果を利用しています。残念ながら、このような全国的評価は国家間で比較されるものではなく、さらに成人は実施対象とな

っていないため、一国における高校生の英語能力を知るための良い指標であるにもかかわらず、国家間で学生を比較するために使用することも成人の英語能力レベルについて知るために使用することもできません。

関連するEF EPIレポート

EF EPIのリサーチシリーズには次の2種類のレポートがあります：成人の英語能力を分析した主要なレポートであり、毎年発行されるこのEF EPIレポート、世界中の中学生、高校生、および大学生の受験者を対象とした、隔年発行のEF EPI for Schools (EF EPI-s)。今年は、EF EPI第8版を公開しました。EF EPI-s第2版は2017年に公開されています。EF EPIのすべてのレポートは、www.ef.com/epiからダウンロードすることができます。

EF Education First

(イー・エフ・エデュケーション・ファースト)

イー・エフ・エデュケーション・ファースト(www.ef.com)は、1965年に「opening the world through education」(教育を通して世界を開く)を使命として創設され、現在、50か国に600を超える学校とオフィスを所有する国際教育機関で、語学、学術、文化交流、留学を中心とした教育事業に取り組んでいます。EFは、東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャル言語トレーニングパートナーです。EF EPI英語能力指数はSignum International AGによって発行されています。

EF EPI 能力レベル

EF EPI能力レベルについて

EF EPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と領域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。EF EPIは国と領域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象からはずす必要があるためです。

能力レベル

非常に高い

オランダ
シンガポール
スウェーデン

タスク例

- ✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる
- ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる
- ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる

高い

ハンガリー
ケニア
フィリピン

- ✓ 職場でプレゼンを行っている
- ✓ テレビ番組を理解できる
- ✓ 新聞を読む

標準的

中国
コスタリカ
フランス

- ✓ 専門分野における会議に参加している
- ✓ 歌の歌詞を理解することができる
- ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる

低い

ボリビア
パキスタン
ロシア

- ✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる
- ✓ 同僚とちょっとした会話ができる
- ✓ 同僚からの簡単なメールを理解することができる

非常に低い

バングラデシュ
モルディブ
アラブ首長国連邦

- ✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる
- ✓ 簡単な合図を理解できる
- ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

CEFR レベルとCan-Do 自己評価

熟練者

-
- C2**
- 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。
 - いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。
 - 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
- C1**
- いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。
 - 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。
 - 社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
 - 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。

自立した言語使用者

-
- B2**
- 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。
 - お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。
 - かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
- B1**
- 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。
 - その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。
 - 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。
 - 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

基礎段階の言語使用者

-
- A2**
- 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
 - 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
 - もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
- A1**
- ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
 - 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。
 - 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

EF EPI 各国・地域スコア

過去からの英語 スキルの変化を見 てみましょう

EF EPIスコア変化は、各国のEF EPI 第8版と第9版における差を示しています。2 ポイントを超える変化（上昇または下降）は、英語能力の大きな移り変わりを示唆しています。EF EPI 第8版は2018年に収集された試験データを使用しており、第9版は2018年のデータを使用しています。

	EF EPI 第8版	EF EPI 第9版	スコア 変化
オランダ	70.31	70.27	-0.04
スウェーデン	70.72	68.74	-1.98
ノルウェー	68.38	67.93	-0.45
デンマーク	67.34	67.87	+0.53
シンガポール	68.63	66.82	-1.81
南アフリカ	66.52	65.38	-1.14
フィンランド	65.86	65.34	-0.52
オーストリア	63.13	64.11	+0.98
ルクセンブルグ	66.33	64.03	-2.30
ドイツ	63.74	63.77	+0.03
ポーランド	62.45	63.76	+1.31
ポルトガル	60.02	63.14	+3.12
ベルギー	63.52	63.09	-0.43
クロアチア	60.16	63.07	+2.91
ハンガリー	59.51	61.86	+2.35
ルーマニア	60.31	61.36	+1.05
セルビア	60.04	61.30	+1.26
ケニア	—	60.51	New
スイス	61.77	60.23	-1.54
フィリピン	61.84	60.14	-1.70
リトアニア	57.81	60.11	+2.30
ギリシャ	58.49	59.87	+1.38
チェコ共和国	59.99	59.30	-0.69
ブルガリア	57.95	58.97	+1.02
スロバキア	58.11	58.82	+0.71
マレーシア	59.32	58.55	-0.77
アルゼンチン	57.58	58.38	+0.80
エストニア	63.73*	58.29	-5.44
ナイジェリア	56.72	58.26	+1.54
コスタリカ	55.01	57.38	+2.37
フランス	55.49	57.25	+1.76
ラトビア	57.16*	56.85	-0.31
香港特別行政区	56.38	55.63	-0.75
インド	57.13	55.49	-1.64
スペイン	55.85	55.46	-0.39
イタリア	55.77	55.31	-0.46
韓国	56.27	55.04	-1.23
台湾	51.88	54.18	+2.30
ウルグアイ	53.41	54.08	+0.67
中国	51.94	53.44	+1.50
マカオ特別行政区	52.57	53.34	+0.77
チリ	52.01	52.89	+0.88
キューバ	50.83*	52.70	+1.87
ドミニカ共和国	54.97	52.58	-2.39
パラグアイ	—	52.51	New
グアテマラ	50.63	52.50	+1.87
ベラルーシ	53.53	52.39	-1.14
ロシア	52.96	52.14	-0.82
ウクライナ	52.86	52.13	-0.73
アルバニア	51.49	51.99	+0.50

* この国はEF EPI第8版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

	EF EPI 第8版	EF EPI 第9版	スコア 変化
ボリビア	48.87	51.64	+2.77
ベトナム	53.12	51.57	-1.55
日本	51.80	51.51	-0.29
パキスタン	51.66	51.41	-0.25
バーレーン	—	50.92	New
ジョージア	52.28	50.62	-1.66
ホンジュラス	47.80	50.53	+2.73
ペルー	49.32	50.22	+0.90
ブラジル	50.93	50.10	-0.83
エルサルバドル	47.42	50.09	+2.67
インドネシア	51.58	50.06	-1.52
ニカラグア	47.26	49.89	+2.63
エチオピア	50.79	49.64	-1.15
パナマ	49.98	49.60	-0.38
チェンジア	47.85	49.04	+1.19
ネパール	—	49.00	New
メキシコ	49.76	48.99	-0.77
コロンビア	48.90	48.75	-0.15
イラン	48.29	48.69	+0.40
アラブ首長国連邦	47.27	48.19	+0.92
バングラデシュ	48.72	48.11	-0.61
モルディブ	—	48.02	New
ベネズエラ	46.61	47.81	+1.20
タイ	48.54	47.61	-0.93
ヨルダン	47.10	47.21	+0.11
モロッコ	48.10	47.19	-0.91
エジプト	48.76	47.11	-1.65
スリランカ	49.39	47.10	-2.29
トルコ	47.17	46.81	-0.36
カタール	48.19*	46.79	-1.40
エクアドル	48.52	46.57	-1.95
シリア	46.37	46.36	-0.01
カメルーン	42.45*	46.28	+3.83
クウェート	45.64	46.22	+0.58
アゼルバイジャン	45.85	46.13	+0.28
ミャンマー	44.23	46.00	+1.77
スーダン	—	45.94	New
モンゴル	44.21*	45.56	+1.35
アフガニスタン	43.64	45.36	+1.72
アルジェリア	44.50	45.28	+0.78
アンゴラ	43.49*	44.54	+1.05
オマーン	45.56	44.39	-1.17
カザフスタン	45.19	43.83	-1.36
カンボジア	42.86	43.78	+0.92
ウズベキスタン	42.53	43.18	+0.65
コートジボワール	—	42.41	New
イラク	40.82	42.39	+1.57
サウジアラビア	43.65	41.60	-2.05
キルギス	—	41.51	New
リビア	39.64	40.87	+1.23

参照資料

- Abbateiello, A., Agarwal, D., Bersin, J., Lahiri, G., Schwartz, J., & Volini, E. (2018). *The Rise of Social Enterprise: 2018 Deloitte Global Human Capital Trends*. Deloitte Insights. Retrieved from <https://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/at/Documents/human-capital/at-2018-deloitte-human-capital-trends.pdf>
- Altman, S. A., Ghemawat, P., & Bastian, P. (2018). *DHL Global Connectedness Index 2018: The State of Globalization in a Fragile World*. Deutsche Post DHL Group. Retrieved from <https://www.logistics.dhl/content/dam/dhl/global/core/documents/pdf/glo-core-gci-2018-full-study.pdf>
- Anholt, S. (2018). *The Good Country Index*. Retrieved from <https://www.goodcountry.org/index/results#>
- Astana Calling. (2018). *President Addresses SCO Summit, Meets with SCO leaders in China*. Retrieved from <https://www.astanacalling.com/president-addresses-sco-summit-meets-sco-leaders-china/>
- BBC News. (2015). *How will a population boom change Africa?* Retrieved from <https://www.bbc.com/news/world-africa-34188248>
- Cato Institute. (2017). *Labor productivity per hour worked*. Human Progress. Retrieved from <https://humanprogress.org/dwdata?p=293&yf=1950&yl=2017>
- Central Intelligence Agency. (2018). *The World Factbook*. Retrieved from <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/>
- Chawla, D. S. (2018). *International collaborations growing fast*. Nature Index. Retrieved from <https://www.natureindex.com/news-blog/international-collaborations-growing-exponentially>
- Council of Europe. (2019). *Language Education Policy Profiles*. Retrieved from <https://www.coe.int/en/web/language-policy/profiles>
- Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: Learning, teaching assessment*. Cambridge, U.K.: Press Syndicate of the University of Cambridge.
- Cronquist, K., & Fiszbein, A. (2017). *English Language Learning in Latin America*. Washington, DC: Inter-American Dialogue.
- The Economist. (2019). *Language without instruction: More children around the world are being taught in English, often badly*. Retrieved from <https://www.economist.com/international/2019/02/23/more-children-around-the-world-are-being-taught-in-english-often-badly>
- The Economist. (2018). *Ed-tech: In poor countries technology can make big improvements to education*. Retrieved from <https://www.economist.com/international/2018/11/15/in-poor-countries-technology-can-make-big-improvements-to-education>
- European Commission. (2017). *Infographics: Foreign Languages at School in Europe 2017*. Retrieved from https://eacea.ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/infographics-foreign-languages-school-europe-2017_en
- Hofstede Insights. (2010). *Power Distance Index*. Retrieved from <https://www.hofstede-insights.com/>
- Hunt, V., Prince, S., Dixon-Fyle, S., & Yee, L. (2018). *Delivering through Diversity*. McKinsey & Company. Retrieved from https://www.mckinsey.com/~/_media/McKinsey/Business%20Functions/Organization/Our%20Insights/Delivering%20through%20diversity/Delivering-through-diversity_full-report.ashx
- ICEF Monitor. (2018). *Annual survey finds continued growth in international schools*. Retrieved from <http://monitor.icef.com/2018/09/annual-survey-finds-continued-growth-in-international-schools/>
- Lanvin, B., & Monteiro, F. (2019). *The Global Talent Competitiveness Index 2019*. INSEAD, the Adecco Group, & Tata Communications. Retrieved from <https://gtcistudy.com/the-gtci-index/>
- Morin, V. (2019). *A l'école primaire de Saint-Baldoph, les élèves apprennent les maths en anglais*. Le Monde. Retrieved from https://www.lemonde.fr/education/article/2019/04/11/a-l-ecole-primaire-de-saint-baldoph-les-eleves-apprennent-les-maths-en-anglais_5448838_1473685.html
- Morin, V. (2019). *Les élèves français, (presque) toujours aussi mauvais en langues étrangères*. Le Monde. https://www.lemonde.fr/societe/article/2019/04/11/les-eleves-francais-presque-toujours-aussi-mauvais-en-langues-etrangees_5448641_3224.html
- Mullis, I. V. S., Martin, M. O., Foy, P., & Hooper, M. (2015). *TIMSS 2015 International Results in Mathematics and Science Study*. Retrieved from <http://timssandpirls.bc.edu/timss2015/international-results/wp-content/uploads/filebase/full%20pdfs/T15-International-Results-in-Mathematics-Grade-8.pdf>
- Oxford Gulf & Arabian Peninsula Studies Forum. (2017). *Higher Education in the Gulf States: Present & Future*. Gulf Affairs. Retrieved from https://www.oxgaps.org/files/gulf_affairs_spring_2017_full_issue.pdf
- Piekkari, R., Welch, D. E., & Welch, L. S. (2014). *Language in International Business: The Multilingual Reality of Global Business Expansion*. Cheltenham, U.K.: Edward Elgar. Retrieved from <https://www.e-elgar.com/shop/eep/preview/book/isbn/9781784710996/>
- Plan Ceibal. (2017). *Evaluación Adaptativa de Inglés en el Sistema Educativo Uruguayo—2017: Informe de resultados*. Retrieved from <https://ingles.ceibal.edu.uy/storage/app/uploads/public/5b1/54f/15b/5b154f15b71d6753857147.pdf>
- Thomson Reuters. (2018). *Diversity and Inclusion Index 2018*. Retrieved from <https://www.thomsonreuters.com/en/press-releases/2018/september/thomson-reuters-di-index-ranks-the-2018-top-100-most-diverse-and-inclusive-organizations-globally.html>
- The World Bank. (2019). *Statistical Tables*. Retrieved from <https://data.worldbank.org/>
- World Economic Forum. (2018). *The Global Gender Gap Report 2018*. Retrieved from http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf

EF EPI のバックナンバーは www.ef.com/epi からダウンロードできます。



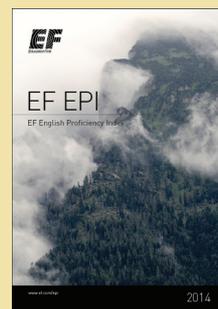
EF EPI英語能力指数
第1版 (2011年)



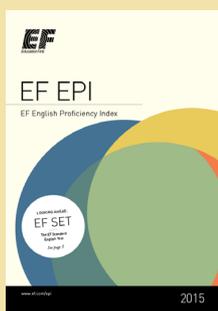
EF EPI英語能力指数
第2版 (2012年)



EF EPI英語能力指数
第3版 (2013年)



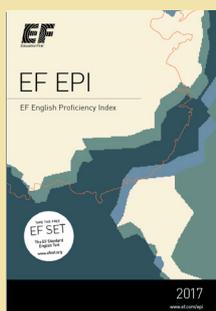
EF EPI英語能力指数
第4版 (2014年)



EF EPI英語能力指数
第5版 (2015年)



EF EPI英語能力指数
第6版 (2016年)



EF EPI英語能力指数
第7版 (2017年)



EF EPI英語能力指数
第8版 (2018年)



EF EPI英語能力指数
第9版 (2019年)

